

履修コード	058681
科目名	異文化コミュニケーション論
担当者名	坪井 健

講義の到達目標(ねらい) この講義は、＜異文化コミュニケーション＞というテーマで、異文化コミュニケーションと異文化交流に関する研究と実際を紹介する。「世界は多文化で出来ている」。この当たり前の事実が、日本のような単一文化社会に住んでいるとたく忘れがちである。しかし、近年、バイト先で、学校で、地域で、電車で、繁華街で、そしてメディアの中で外国人に接する機会が急速に拡大している。海外旅行や語学留学、海外駐在員の家族として海外経験した人も多い。こうした異文化接触機会の増大は、異文化コミュニケーションスキルの必要性を投げかけている。グローバル化する社会の変化に適応的に生きていくために、異文化に気づき、異文化コミュニケーションの実際から学ぶことで、自己アイデンティティ基盤の拡大と知的柔軟性を育てよう。

講義の内容／授業スケジュール <講義内容>
 1. はじめに ―この講義の方針と進め方―
 2. 異文化体験を語る―その1
 3. 異文化体験を語る―その2
 4. 文化とコミュニケーション
 5. 異文化コミュニケーションとは
 6. 言語と非言語
 7. 文化とステレオタイプ
 8. カルチャーショックと異文化適応
 9. コンテキストと意味
 10. 異文化に学ぶ ―その1
 11. 異文化に学ぶ ―その2
 12. 異文化に学ぶ ―その3
 13. 異文化と自文化 誤解と悲劇
 14. おわりに ―異文化コミュニケーション能力を高める―

準備学習 特にありませんが、見過ごしていた過去の身近な異文化体験についてあらかじめ思い浮かべて見てください。そうするとこの授業内容は身近なむものになるでしょう。

履修上の留意点 この授業では、受講生に異文化体験してもらったり、その異文化体験を発表してもらうことがあります。また、対話形式で授業を進めることもありますので、楽しみながら積極的に参加してください。

成績評価の方法 授業参加度評価 (50%) + 課題レポート評価 (50%)

教科書／テキスト 特に指定するテキストはありません。その都度、プリントを配布します。

参考書 その都度、指示します。

履修コード	058281
科目名	外書講読演習
担当者名	山田 信行

講義の到達目標(ねらい) 英語文献の輪読を通じて、社会学に関する理論的・経験的な学識を深めることを目的としている。

講義の内容／授業スケジュール とりあげる文献については、開講時に指示する。授業はゼミ形式で行う。

準備学習 社会学および社会問題への関心を日ごろから培っておくこと。

履修上の留意点 英語の購読授業とは一線を画するものにしたが、あくまでテキストの理解を徹底することが目的達成のための第一歩なので、丁寧に英文を読み取ることを心がけていくようにしたい。

成績評価の方法 平常点、中間試験、および学期末試験を総合して評価する。

教科書／テキスト 参加者と相談して決める。

参考書 適宜、指示する。

その他 英語の学力については、とくに問題にしないものの、まとまった文献を読みとおすだけの意欲は必要である。

履修コード	058451
科目名	家族とジェンダーの社会学A
担当者名	松信 ひろみ

講義の到達目標(ねらい) 本講義のテーマは、現代の結婚と家族にかかわる諸現象や問題を、社会的な観点から考察することである。統計的なデータから、さまざまな現象や問題に関しての現状を読み取り、その現状を社会的な観点から把握できる能力を養うことが目標となる。

講義の内容／授業スケジュール 授業の前半では、家族社会学の基本的な考え方を解説し、近代家族から現代家族への変遷の過程について説明する。授業の後半では、現代家族をめぐる具体的な現象や問題を取り上げ、各々について統計的なデータなども用いて現状の解説と社会的な観点からの検討を行う。具体的には、未婚化・晩婚化の進展、離婚の増加、少子・高齢化、共働き家族の仕事と家庭生活の調和の問題などを取り上げて検討してゆく。

第1回 家族変動と家族のゆくえ
 第2回 家族機能の変化
 第3回 ライフコースと家族
 第4回 ネットワークと家族
 第5回 新しい家族のかたち①事実婚や同性婚
 第6回 新しい家族のかたち②単親家族とステップ・ファミリー
 第7回 恋愛と結婚①現代の結婚
 第8回 恋愛と結婚②シングルライフ
 第9回 性別役割分業と家族
 第10回 少子化と子育て支援①現代の少子化
 第11回 少子化と子育て支援②子育て支援
 第12回 高齢化社会と家族①だれが介護するのか
 第13回 高齢化社会と家族②看取りとグリーフワーク
 第14回 ストレスとしての家族
 第15回 まとめ

成績評価の方法 平常点 (出席・コメントペーパー) 30%、レポート70%

教科書／テキスト 増子勝義編著『21世紀の家族さがし』学文社、2010

参考書 適宜紹介する

履修コード	058461
科目名	家族とジェンダーの社会学B
担当者名	松信 ひろみ

講義の到達目標(ねらい) 本講義のテーマは、ジェンダーの観点から現代社会の諸現象や問題を考察することである。さまざまな社会現象や問題に関して、ジェンダーの視点から検討することにより、新たに見えてくる問題を把握し、その問題について、社会学的な観点から考察を行うことを目標とする。

講義の内容／授業スケジュール 授業の前半では、ジェンダーについて基本的な考え方を解説する。授業の後半では、ジェンダーにかかわる具体的なトピックについて、統計的なデータも用いて現状の解説と社会学的な観点からの考察を行う。また、当該者を招いて話をさせていただくことも考えている。授業で扱う具体的なトピックは、多様な性の存在、性別役割分業とケアの担い手、雇用と就労、性暴力、性の商品化、リプロダクティブ・ヘルス&ライツなどである。

第1回 ジェンダーとは
第2回 多様な性の存在①ジェンダーとセクシュアリティ
第3回 多様な性の存在②セクシュアル・マイノリティの現状
第4回 ジェンダーと男性問題(メンズリブ)
第5回 ケアの担い手とジェンダー①育児の担い手
第6回 ケアの担い手とジェンダー②介護の担い手
第7回 雇用・就労とジェンダー①性別職域分離
第8回 雇用・就労とジェンダー②労働環境におけるジェンダー格差
第9回 リプロダクティブ・ヘルス&ライツ①生殖にかかわる南北問題
第10回 リプロダクティブ・ヘルス&ライツ②生殖医療
第11回 性暴力とジェンダー①セクシュアル・ハラスメント
第12回 性暴力とジェンダー②ドメスティック・バイオレンス
第13回 性の商品化とジェンダー①性の商品化とは
第14回 性の商品化とジェンダー②ポルノや売春の問題性とは
第15回 まとめ

履修上の留意点 家族とジェンダーの社会学Aと連動している部分もあるため、できれば、家族とジェンダーの社会学Aも履修しておいてほしい。

成績評価の方法 平常点(出席・コメントペーパー)30%、レポート70%

教科書／テキスト 特定の教科書は使用しないので、参考書を随時参照してほしい。

参考書 増子勝義編著『21世紀の家族さがし』学文社、2010
伊藤公男『ジェンダーの社会学(新訂)』(財)放送大学教育振興会、2010

履修コード	058751
科目名	環境社会学
担当者名	品田 知美

講義の到達目標(ねらい) 現代社会では人間活動の領域が広がった結果として、環境や資源の制約という問題の重要性が認識されている。社会学はこの問題をどのように扱うことができるのだろうか。日常生活とのつながりを常に意識し、問題領域に關する基礎的な知識を学び、実践的な対処へと応用できる社会学的な思考法を身につける。

講義の内容／授業スケジュール

- 1) イントロダクション
- 2) 鉱物資源と公害問題から考える
- 3) リサイクルとごみ問題から考える
- 4) 野生生物の保護から考える
- 5) 森林の保全と水問題から考える
- 6) 暮らしとエネルギー問題から考える
- 7) 気候変動問題から考える
- 8) 中間試験
- 9) 社会学の理論と環境
- 10) 社会調査でみる環境意識と行動
- 11) 環境リスクとメディア
- 12) 環境の倫理・公正
- 13) 地球環境と自然の制約
- 14) 持続可能な社会と公平性
- 15) 定期試験

準備学習 環境問題を扱った関連情報などを日常的に意識して入手し、読んでいること。

履修上の留意点 講義を受動的に聞くにとどめず、意見を述べるなど積極的な参加を期待したい。

成績評価の方法 中間試験40% 定期試験 60%

教科書／テキスト 指定しない。プリントを配布する。

参考書 授業中に適宜紹介する。

その他 特段の事情のない遅刻については、入室を制限する場合がある。

履修コード	073401
科目名	環境心理学
担当者名	林 久美

講義の到達目標(ねらい) 私たちをとりまく「環境」とは？

実にさまざまな要素からなる「環境」。人間が存在し、その周囲にある空間・室内、建築、都市…すなわち「環境」はいろいろな尺度で捉えることができる。そのなかで私たちの生活は存在し、人間と環境は常に相互に影響を与え合っている。

人間がより豊かで多様な関わりを持てる環境を作るために、人間が環境をどのように知覚・認知しているか、あるいは環境における人間行動・生態など、人間が本来的に持つ性質を実証的に明らかにする観察・実験例（環境行動研究：Environment-Behavior Studies）をもとに、それを基盤とした人間の観点に基づく環境デザインの理論的背景を得ることを目的とする。

**講義の内容／
授業スケジュール**

- 1) 環境心理学の概観・問題意識
・環境行動デザインの意義・建築計画学と環境心理学
- 2) 人間の心理・行動とそのデザインへの応用
・人間のスケール、人間の周りの空間・環境と行動・環境のアフォーダンス・プロクセミクス・パーソナルスペース・テリトリー・ディフェンシブルスペース・空間の知覚/認知・ウェイファインディング
- 3) 建築計画学における環境心理研究・実践
・住まいと環境心理学・都市と環境心理学・こどもの発達と環境心理学・老いと環境心理学

履修上の留意点 日常生活に関連する事柄が多いので、日頃から自身の行動、周辺環境との関わりについて興味を持っていること。

成績評価の方法 レポートによる。

参考書

- ・日本建築学会編：人間環境学、朝倉書店、1998
- ・高橋鷹志、長澤泰、西出和彦編：シリーズ<人間と建築> 1 環境と空間、朝倉書店、1997
- ・ジョン・ラング著、高橋鷹志監訳「建築理論の創造 建築デザインにおける行動科学の役割」鹿島出版会（1992）
- ・高橋鷹志＋チームEBS編著：環境行動のデータファイル-空間デザインのための道具箱-、彰国社、2003

履修コード	058071
科目名	基礎文献講読演習
担当者名	牛島 千尋

講義の到達目標(ねらい) 本演習では、1年生で学んできた社会学的な視点を深め、さらに応用力を身につけることを目的として、社会学の基礎的な文献をゼミ形式で輪読して行く。多様な社会学の分野を総合的に扱っているテキストの読破を目指し、毎回、各章についての報告とその内容についての討論を行う。この一連の作業を通じて、各章の中心的なテーマと概要の理解を深めることがねらいである。
本演習において、社会学的応用力を身につけ、3年次以降のゼミ選択と卒業論文のテーマ選択に生かして欲しい。

**講義の内容／
授業スケジュール** 演習は、クラスをいくつかのグループに分けた上で、以下のような順番でテキストの輪読と発表、討論を行う。

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 親密性と公共性
- 第3回 相互行為と自己
- 第4回 社会秩序と権力
- 第5回 組織とネットワーク
- 第6回 メディアとコミュニケーション
- 第7回 空間と場所
- 第8回 環境と技術
- 第9回 医療・福祉と自己決定
- 第10回 家族とライフコース
- 第11回 ジェンダーとセクシュアリティ
- 第12回 エスニシティと境界
- 第13回 格差と階層化
- 第14回 文化と再生産
- 第15回 まとめ

準備学習 基本的な準備学習は、1年次に学んだ社会学の基礎知識を復習しておくことである。
さらに、演習に参加するにあたっては、報告担当になった章について、その章の概要をレジュメにまとめ、討論のポイントについて整理すること、そして、理解をより深めるために、テキストを超えて、関連する事柄を調べることも必要になる。
また、報告にあたっていない場合でも、テキストを読み、討論に向けての準備を行うことが求められる。

履修上の留意点 ゼミ形式の演習であるため、出席と報告、討論での発言が重視される。報告担当になった章の発表をきちんと行うばかりでなく、報告にあたっていない場合でも予習をし、活発な討論ができるように心掛けて欲しい。

成績評価の方法 平常点（出席、報告、討論の様子など）50%、レポート50%

教科書／テキスト 長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志『社会学』有斐閣、2007

参考書 必要に応じて紹介する

履修コード	058061
科目名	基礎文献講読演習
担当者名	坪井 健

講義の到達目標(ねらい)	社会学の基礎的なテキストを輪読することを通じて、社会学の基礎概念や方法論を体得することを目的とする。
講義の内容／ 授業スケジュール	あらかじめ指定されたテキストをゼミ形式で輪読し、全員で議論する。ゼミの実施にあたっては、報告者、討論者、および司会者を毎回決めて、ディスカッションの仕方も練習する。 スケジュールは、以下の通り。 1. ガイダンスおよび自己紹介 2. 分担の決定 3～15. 輪読ゼミの実施
準備学習	できるだけ、自らの問題関心を自覚的に育み、日ごろから社会学の文献に親しんでおくことが望ましい。
履修上の留意点	少人数のゼミ形式の授業なので、無断欠席・遅刻は厳禁である。積極的な参加を期待している。
成績評価の方法	平常点と学期末レポートによって評価する。レポートの詳細については、追って指示する。
教科書／テキスト	長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志 2007 『社会学』有斐閣
参考書	適宜、指示する。
その他	あらかじめ、指定された学生番号の学生のみ履修できる。3年次の社会学演習Ⅰとは、継続性はない。

履修コード	058081
科目名	基礎文献講読演習
担当者名	李 妍炎

講義の到達目標(ねらい)	本講義では、社会学の基礎的知識を網羅したテキストを講読することによって、社会学の基本的な考え方を習得することを目的とする。とりわけ、自己と他者、相互行為、コミュニケーション、メディアなど、人と人との関係性についての基礎概念を学び、現代社会が抱える様々な問題を社会的にとらえる力を身につける。なお、講義は演習方式を採用し、受講者の報告に対して、受講者同士で議論したり補足説明を加えながら進めていく。
講義の内容／ 授業スケジュール	第1回：講義のガイダンス、第2回：社会的考え方とは、第3～4回：親密性と公共性、第5～6回：相互行為と自己、第7～8回：社会秩序と権力、第9～11回：メディアとコミュニケーション、第12回：歴史と記憶 第13回：国家とグローバリゼーション、第14～15回：講義のまとめ
準備学習	毎回、報告者はテキストをまとめたレジュメを作成し、ポイントや疑問点を自分なりにまとめた上で、他の学生にわかりやすく伝える努力をしてほしい。それ以外の学生は、予習を心がけ、受け身ではなく積極的な姿勢で授業に臨んでもらいたい。
成績評価の方法	学期末試験（7割）に出席状況、報告などの平常点（3割）を加味して総合的に判断する。
教科書／テキスト	長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志『社会学』有斐閣、3500円、ISBN978-4-641-05370-0
参考書	随時、授業中に指示する。

履修コード	085701 085702
科目名	教育社会学
担当者名	伊藤 茂樹

講義の到達目標(ねらい)	教育社会学は、教育を社会現象ととらえ、社会学の手法を用いてアプローチする学問であり、教育や学校、子ども、青少年などに関するあらゆる現象が対象となる。分析のレベルも国の教育政策といったマクロレベルから、教室内での人間関係や相互作用といったミクロレベルまで多岐にわたる。そして、私たちがともすれば自明視しがちな「常識」を相対化して批判的なまなざしを向けようとして、実態の客観的な分析をふまえて実践や政策に寄与する知見を得る学問である。この学問についての基礎知識を持ち、それを用いて現代社会の教育について考えていく。
講義の内容／ 授業スケジュール	(1～5) 教育社会学の対象と方法、(6～9) 学校の歴史と機能、(10～13) 教育制度の類型と発展、(14～17) 学校における相互作用、(18～22) 情報化社会と子ども、(23～30) 現代の教育問題と教育改革
履修上の留意点	授業への積極的な参加を求める。
成績評価の方法	課題とレポートにより評価する。
教科書／テキスト	教科書は特に指定せず、参考書はその都度指示する。

履修コード	058501
科目名	行政法
担当者名	鶏徳 啓登

講義の到達目標(ねらい)	現代国家は、一般に福祉国家と言われるようになったが、我国も憲法制定後60年経過して、国外的・国内的に、社会情勢の変化に伴う新しい問題が生じてきている。国内的には戦後の経済政策の下になされた約1万件に上る規制の緩和がなされる一方で、国民の高齢化問題に対処すべく消費税率の引き上げ、宗教法人法の改正による宗教団体の規制問題など枚挙に暇がない。 本講義は、種々の行政作用を中心に行政法の輪郭を理解することをねらいとする。
講義の内容／ 授業スケジュール	1回～3回 : 行政法の意義について（法令の種別と法の解釈を含む）。 4回～6回 : 行政作用と行政行為について。 7回～15回 : 行政行為（特許や許可等）の意義、内容、効力について。 16回～20回 : 行政上の強制手段と行政上の処罰について。 21回～25回 : 国家による賠償と補償について。 26回～30回 : 行政上の不服申し立てと行政事件訴訟について。
成績評価の方法	成績評価は出席状況と試験またはレポートによる。
教科書／テキスト	原田尚彦著 『行政法要論』（学陽書房） 3,000円：ISBN4-313-31222-6 『小六法』 出版社・定価各種
参考書	塩野宏著『行政法Ⅰ・Ⅱ』（有斐閣）4,000円 その他、教場にて説明。

履修コード	117501
科目名	経済原論 ◎
担当者名	福田 慎

講義の到達目標(ねらい) 本講義では、基本的なミクロ経済学とマクロ経済学について扱う。特に、公務員試験の他国家試験に対応できる知識を得ることを目的としている。こうした試験では、それ相応の問題が設定されているため、それに対応できる知識が得られる。また、実際の経済への応用を念頭に置きながら講義を進めていく。

講義の内容／授業スケジュール	<p>(前期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスと成績評価 2. 消費者理論：最適消費点と無差別曲線 3. 消費者理論：代替効果と所得効果 4. 消費者理論：効用関数の計算と需要曲線 5. 消費者理論：需要の価格弾力性 6. 生産者理論：利潤最大化と費用関数 7. 生産者理論：損益分岐点と操業停止点 8. 生産者理論：長期均衡、課税と費用曲線 9. 生産者理論：特定の生産関数の扱い 10. 不完全競争の生産者理論：独占と寡占 11. 不完全競争の生産者理論：独占的競争 12. 余剰分析 (1) 13. 余剰分析 (2) 14. 余剰分析 (3) 15. 前期の復習 <p>(後期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国民所得の決定 (1) 2. 国民所得の決定 (2) 3. IS-LM分析 4. 為替レート考慮したIS-LM分析 5. 消費関数と投資関数 6. 貨幣理論 7. 乗数理論 (1) 8. 乗数理論 (2) 9. 総需要・総供給分析 (1) 10. 総需要・総供給分析 (2) 11. 総需要・総供給分析 (3) 12. 総需要・総供給分析 (4) 13. 経済成長の理論 (1) 14. 経済成長の理論 (2) 15. 後期の復習
-----------------------	--

履修上の留意点	ミクロ経済学ではある程度の数学の知識を要しますが、その都度説明していくので、数学初心者でも履修は可能です。
成績評価の方法	試験60%、レポート40%で評価する。
教科書／テキスト	岩田規久男、飯田泰之著、『ゼミナール経済政策入門』(2006)、日本経済新聞社、ISBN: 4-532-13310-6
参考書	ミクロ経済学：武隈慎一、(1999)、『ミクロ経済学』、新世社 マクロ経済学：N. グレゴリー・マンキュー、足立ほか訳、(2008)、『マンキューマクロ経済学 I 入門編』、東洋経済新報社
その他	事前に配布する資料と板書による講義形式です。

履修コード	058881
科目名	現代社会学理論研究
担当者名	岩瀬 庸理

講義の到達目標(ねらい) 社会学理論は社会学が社会を説明する基本的概念の体系です。それは、単独の個人の行動の説明でなく、社会現象を説明しようとするものです。また、それは社会学史とは異なります。連字符社会学の個別経験命題の集合でもありません。それは、社会的行為および社会構造の原理と変動を説明するための方法、枠組、仮説、命題、思想などを含む体系化された社会的知識の総体です。その基本的テーマは「個人と社会」の関係の解明および「近代社会の特徴」の解明です。本講義では、「社会的に考え、理解し、説明するとはどういうことなのか」を強調します。理論を「学ぶ」のではなく、「応用し、発展させる」ための考え方の獲得を目指します。

講義の内容／授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 第一回 社会学における理論と実証 第二回 社会的行為の理論と社会構造の理論 第三回 主意主義的行為理論 第四回 象徴的相互作用理論 第五回 現象学的社会学理論 第六回 合理的選択理論 第七回 構造機能主義理論 第八回 社会構成体論 第九回 社会システム論 第十回 批判的社会理論 第十一回 社会変動の理論 第十二回 近代化論 第十三回 ワールド・システム論 第十四回 グローバリズム論 第十五回 現代社会学理論の潮流
-----------------------	--

準備学習	社会学の基礎概念をきちんと身につけるために社会学事典・辞典を活用すること。
履修上の留意点	ノートをきちんととってください。また、配布する資料は保存しておいてください。
成績評価の方法	学期末試験と授業内に提出を求める課題を基本に評価します(70%)。出席状況も評価します(30%)。
教科書／テキスト	特定の教科書は使用しません。
参考書	参考書や講読文献は教室で適宜指示します。
その他	必要に応じてリアクション・ペーパーを求めます。

履修コード	058671
科目名	国際社会論
担当者名	山田 信行

講義の到達目標(ねらい)	グローバル化のもとで、国際的な社会認識を高めることを目標にして、諸外国の社会事象や世界的な社会問題に言及する。
講義の内容／ 授業スケジュール	この講義では、グローバル化という社会変動が周辺社会（発展途上地域）に与える影響について、多民族社会マレーシアを事例に設定し、世界システム論を理論ツールの1つとして用いながら考察する。さらに、そうした社会変動が世界全体に与える影響についても考察する。講義内容は、以下のとおり。それぞれの単元について、1～2回の講義をおこなう。 1. グローバル化とはなにか 2. 世界システムと周辺 3. 周辺社会マレーシア-歴史・現状・特質 4. 周辺社会の変動を規定するもの 5. 日本企業は何をしているのか 6. 情報化戦略の現状と意味 7. 国家の政策 (1) 比較NIEs形成論 (2) エスニシティと「三者同盟」 8. 自生的企業とインフォーマル化 9. エスニシティとリンケージ形成-華人ネットワークと企業間関係 10. 移民労働者の両義性 11. 労使関係の動向と労働者の技能形成 12. ニュー・リッチの形成と階級構成の変化 13. 半周辺化とポスト新国際分業-世界システムの変動
準備学習	日ごろから、グローバルな問題について関心を持ち、そうした視野で思考する習慣をつけておくことが望ましい。
履修上の留意点	講義の理解を深めるためには、継続的に出席することが重要である。
成績評価の方法	授業内で実施する小テスト（5回）によって、成績を評価する予定。継続的な出席と講義内容の復習が重要となる。
教科書／テキスト	山田信行 2006『世界システムの新世紀-グローバル化とマレーシア』東信堂
参考書	講義のなかで、適宜支持する。
その他	関連科目として、異文化コミュニケーション論がある。

履修コード	058381
科目名	雇用と労働の社会学
担当者名	山田 信行

講義の到達目標(ねらい)	社会学の観点から雇用と労働に関する基本的な理解を深めるとともに、非典型雇用、ワーキング・プア、および外国人労働者などの現代的な問題への認識も深める。
講義の内容／ 授業スケジュール	この講義では、雇用という関係について基礎的な事項を確認したうえで、主として日本を事例として、雇用をめぐる基本的な制度とその現代的な変容について、パート労働や有期雇用の拡大、および外国人労働者の利用に象徴される雇用の多様化とそれに伴う労使関係の変化に言及しながら概説する。講義の内容は、以下の通り（各単元につき、1～2回程度講義を行う予定）。 1. 雇用という関係-雇用の発生と労使関係の本質 2. 労使関係の現代的展開-労使関係モデルの変遷とグローバル化 3. 現代日本の産業・労働 (1) 年功賃金と終身雇用 (2) フレキシビリティと非典型雇用 (3) フリーター問題 (4) 自主管理活動 (5) 企業別組合と春闘 (6) ユニオンと新しい労働運動 (7) ME革命と技術革新 (8) 日本型コーポラティズム 4. 外国人労働者と看護・ケア労働 (1) 日本における外国人労働者 (2) 再生産労働のグローバル化 (3) 外国人看護労働の現状と課題
準備学習	日常的にメディアによる報道などを通じて、雇用の問題に関心を持っておくことが望ましい。
履修上の留意点	講義の内容を的確に理解するためには、継続的に出席することが重要である。
成績評価の方法	授業内で行う小テスト（5回）によって、成績を評価する予定。小テストの成績は、継続的な出席と講義内容の復習と大きな相関をもつことが想定される。
教科書／テキスト	とくになし。
参考書	山田信行1996『労使関係の歴史社会学』ミネルヴァ書房
その他	前期に開講される「産業と変動の社会学」もあわせて履修することが望ましい。

履修コード	058741
科目名	災害社会学
担当者名	小嶋 直子

講義の到達目標(ねらい) 自然災害研究には、自然科学と社会科学の双方からのアプローチがあるが、本講義では社会学、社会心理学および都市科学を含めた社会科学的観点から講義する。地震、風水害といった自然災害に関する災害時の情報と人間行動、災害後の復興計画などの諸問題について概説する。

講義の内容／授業スケジュール

- ・オリエンテーション
- ・「災害社会学」概説
- ・災害史（天災～都市災害）災害研究史
- ・災害の持つ諸次元
- ・災害文化と災害観
- ・災害と大衆行動
- ・災害と流言飛語
- ・災害と報道
- ・災害と地域特性
- ・ボランティア
- ・災害の社会文化に対する長期的影響

過去の災害研究を踏まえ、災害に関わる様々なトピックを挙げながら講義を進める。また、近年の災害を事例として災害時における諸問題を明らかにする。必要に応じてビデオの使用や資料配布を行う。

準備学習 身近な災害から世界中で起こっている災害に関心を持つ

成績評価の方法 出席率を含む平常点と定期試験により評価する

教科書／テキスト 使用せず

参考書 授業中に指示する

履修コード	073601
科目名	産業心理学
担当者名	大谷 華

講義の到達目標(ねらい) 産業心理学では、組織で働く人々の行動や意識を心理学的に考えます。会社は何を考えて人を雇うのか？ どのような組織経営が働き手の意欲を高め、生産性につながるか？ 安全に働くためになすべき工夫とは？ みなさんが社会人となったときに、幸せなワークライフを送り、健全な組織経営を促すための知識と視点を学びましょう。

講義の内容／授業スケジュール

1. ガイダンス、2. 産業・組織心理学の歴史と研究、3. 組織行動（ワークモチベーション、組織のコミュニケーション、リーダーシップ）、4. 人的資源管理（採用・面接、人事評価、キャリア発達）、5. 職場の安全衛生（能率と安全、ヒューマンエラー、人間工学とデザイン）、6. まとめ、テスト、フィードバック。受講生の関心・要望に応じて、授業内容を変更する場合があります。

成績評価の方法 前後期に授業内試験、およびレポート課題を行います。授業中に随時、ミニレポートとリアクションペーパーを課します。試験・レポート成績とリアクションペーパーの提出・内容を総合的に評価します。

教科書／テキスト 『よくわかる産業・組織心理学』山口裕幸・金井篤子（編）、ミネルヴァ書房

履修コード	058371
科目名	産業と変動の社会学
担当者名	山田 信行

講義の到達目標(ねらい) 社会学の観点から産業と社会変動に関する基本的な理解を深めるとともに、労使関係、企業戦略、生産システム、およびグローバル化などの現代的な問題への認識を深める。

講義の内容／授業スケジュール

この講義では、労使関係の変化とそれに対する雇主の対応と企業戦略の変化に照準して、生産システムの変遷をたどり、その過程に多国籍企業の展開と日本的なシステムの意義を位置づける。さらに、現代社会の基本的な変動趨勢としてのグローバル化の原因とその影響についても考察する。授業の内容は、以下のとおり。それぞれについて、2回程度講義を行う。

1. 近代化・産業化・資本主義-労使関係の成立
2. 労使関係と生産システム
 - (1) テラー主義とその限界 (2) フォード主義とその意味
3. ポスト・フォード主義
 - (1) 労使関係の変容とフォード主義の限界 (2) 雇主の戦略と新国際分業 (3) 多国籍企業の戦略と周辺社会の工業化 (4) 日本的生産システム
4. グローバル化と日本的生産システム
 - (1) グローバル化の原因と日本企業 (2) 国際移転と普遍性
5. グローバル化とサービス経済化
 - (1) ポスト新国際分業と産業構成の変化 (2) 世界都市と移民労働者の流入
6. インフォーマル化の進展
 - (1) インフォーマル・セクターの拡大 (2) インフォーマル化の概念と意味

準備学習 日ごろから、新聞その他のメディアを通じて、授業で扱う問題についての知識を吸収しておくことが望ましい。

履修上の留意点 継続的に出席することが、講義内容を理解するうえで重要である。

成績評価の方法 授業内で実施する小テスト（5回実施）によって、成績を評価する予定。出席はとらないが、小テストの成績は出席率と強い相関があることはいままでの間でもないので、その点留意すること。

教科書／テキスト 特になし。

参考書 山田信行 1998『階級・国家・世界システム-産業と変動のマクロ社会学』ミネルヴァ書房

その他 後期に隔年開講している雇用と労働の社会学もあわせて履修することが望ましい。

履修コード	058241
科目名	質的調査法演習
担当者名	深澤 弘樹

講義の到達目標(ねらい)	本講義の目的は、質的調査法に関する理解を深めるとともに、実際に現地調査を実施するのに必要な知識を習得していくことにある。本講義では、社会調査の方法のなかで、とりわけ、質的調査に関する方法論について検討していく。具体的には、質的調査法の歴史的経緯ならびに特徴を整理した上で、フィールドワークやインタビュー、会話分析、内容分析などについて、データの集め方や分析技法を解説する。
講義の内容／授業スケジュール	第1回：ガイダンス、第2回：質的調査とは何か、第3～4回：フィールドワークとは何か、第5回：参与観察法、第6～8回：インタビュー、第9回：ライフヒストリー分析、第10～11回：会話分析、第12～13回：内容分析、第14回：質的調査の実際、第15回：まとめ
成績評価の方法	平常点（出席状況、作業への参加度合い）や提出物（課題、レポート）により総合的に判断する。評価の割合は平常点3割、提出物7割とする。
教科書／テキスト	特になし。
参考書	必要に応じて複数の参考書を使用する予定。その都度プリントを配布する。 なお、基本的な参考書として以下の文献を挙げておく。 谷富夫・芦田徹郎編著『よくわかる質的社会調査：技法編』ミネルヴァ書房、2500円、ISBN978-4-623-05273-8 谷富夫・山田努編著『よくわかる質的社会調査：プロセス編』ミネルヴァ書房、2500円、ISBN978-4-623-05844-0 工藤保則・寺岡伸悟・宮垣元編『質的調査の方法：都市・文化・メディアの感じ方』法律文化社、2400円、ISBN978-4-589-03223-2

履修コード	073501
科目名	児童心理学
担当者名	澤田 匡人

講義の到達目標(ねらい)	- 小学校入学前後から思春期までを中心とした子どもについて、その心理的特徴に関する基礎的な知識の習得を目的とします。
講義の内容／授業スケジュール	- 原則として「1回1テーマ」で簡潔な内容をスライドを用いて展開していきます。ただし、テーマによっては2～3週に渡る場合もあります（例：「発達障害」など）。「発達段階」や「知能」のような定番のテーマ（#2～#11）から、「感情」や「集団」といった対人関係の発達（#12～#21）、「いじめ」や「不登校」に代表される不適応の問題（#22～#30）に至るまで、子どもの心とその発達の変化を理解する上で欠かせないさまざまな内容を取り上げ、わかりやすく解説していきます。
履修上の留意点	- 1：初回の授業で説明する「受講契約」（受講する上での基本的なルール）を確認してから、この授業を履修するか否かを慎重に判断してください。そのためにも、履修を希望する学生は、初回（もしくは、第二回）の授業に必ず出席するようにしてください。 - 2：簡単な感想を毎回提出してもらうことになります。そして、次回の授業の冒頭にて、その一部を紹介しながら、受講生からの質問に答えたり、受講生の意見を直接伺ったりします。 - 3：感想紹介や授業中のやり取りを通じて、受講生全員の顔と名前を一致させるように努めております。児童心理学に興味があり、かつ一定回数の出席が見込める学生の受講を期待します。
成績評価の方法	- 授業で取り扱った内容全般に関する理解度の確認をするための課題から評価します。ガイダンスで説明する成績評価や受講契約などを十分に納得された上で履修登録してください。
教科書／テキスト	- 使用しません。なお、スライド画面を印刷して配布することはありませんので、あらかじめご了承ください。
参考書	- 使用しません。
その他	- 講義は全回に渡って「スライド」を用いて行われます。テキストやプリントの類は一切使用しませんから、投影された画面が頼りとなります。とはいえ、ノートテイクはあくまで「任意」です。スライドで呈示する内容を最小限に抑えてある上に、見やすい配色やアニメーションにも留意しておりますので、回数を重ねることにノートテイクのコツがつかめていくものと思われます。

履修コード	065621 065622
科目名	児童福祉論
担当者名	村田 一昭

講義の到達目標(ねらい) 1989年に国連で子どもの権利条約が採択されて以降、「子どもの最善の利益」の追求を基本とした子どもの権利擁護サービスが重視され、伝統的な児童福祉から新たな児童福祉へと制度や実践の変革が進められてきています。そこでこの授業は、子どもと家庭を取り巻く現状を踏まえながら、子どもと家庭のウェルビーイング(well-being)をめざす新たな児童福祉である子ども家庭福祉について、その基本的枠組とソーシャルワーク実践に関する理解を深めることを目標にしています。

講義の内容／授業スケジュール

- 子ども家庭福祉の理念
 - ①ウェルフェアからウェルビーイングへ(第1回)
 - ②子どもの権利条約(第2回)
 - ③児童福祉法の基本原則(第3回)
- 子どもと家庭をめぐる最近の動向
 - ①少子化の動向と対策(第4回)
 - ②子ども虐待の実態と対応(第5回)
 - ③少年非行・少年犯罪の動向と対応(第6回)
- 子ども家庭福祉の法体系
 - ①児童福祉法(第7回)
 - ②児童福祉六法(第8回)
 - ③関連法(第9回)
- 子ども家庭福祉の実施体制
 - ①子ども家庭福祉行政の仕組み(第10回)
 - ②子ども家庭福祉の実施機関(第11~12回)
- 子ども家庭福祉への歩み(第13回)
- 子ども家庭福祉施策の現状と課題(第14回)
7. 子ども家庭福祉のソーシャルワーク実践の実際(第15回)

履修上の留意点 可能な限り、受講生とのコミュニケーションを図りながら授業を進めたいので、質問や感想などをリアクションペーパーに積極的にコメントしてください。

成績評価の方法 課題レポートと期末試験に平常点(出席およびリアクションペーパー)を加味して評価します。

教科書／テキスト 高橋重宏・山縣文治・才村 純編「子ども家庭福祉とソーシャルワーク(第3版)」(社会福祉基礎シリーズ⑥児童福祉論) 有斐閣 ¥2,000
※授業内容により、プリントを配布します。

参考書 随時、紹介します。

その他 ①授業はパワーポイントを使用
②各テーマ終了時に小テスト実施
③YeStudy利用

履修コード	058311
科目名	市民社会論
担当者名	李 妍炎

講義の到達目標(ねらい) この授業では市民社会に関する議論、そして市民社会の実践について学ぶことによって、市民社会の論理を理解していくことと、日本における市民社会の展開の特徴と可能性について考えていくことをテーマとする。

講義の内容／授業スケジュール まず市民社会のイメージと定義を明確にした上で、市民社会論における社会学的アプローチの主要な議論を概説し、さらに市民社会の様々な実践について学んでいく。最後に理論と実践両方の学習を踏まえつつ、日本における市民社会の発展の特徴と可能性を探っていく。

授業計画

- 第1回: ガイダンス——市民社会に対するあなたのイメージは?
- 第2回: 市民社会の具体像をつかもう(1)
- 第3回: 市民社会の具体像をつかもう(2)
- 第4回: 市民社会の具体像をつかもう(3)
- 第5回: 市民社会の定義と概念を整理してみよう
- 第6回: 市民社会への社会学的アプローチ(古典その1)
- 第7回: 市民社会への社会学的アプローチ(古典その2)
- 第8回: 市民社会への社会学的アプローチ(現代その1)
- 第9回: 市民社会への社会学的アプローチ(現代その2)
- 第10回: 市民社会の実践(世界編その1)
- 第11回: 市民社会の実践(世界編その2)
- 第12回: 市民社会の実践(日本編その1)
- 第13回: 市民社会の実践(日本編その2)
- 第14回: 市民社会の論理と日本における市民社会の特徴
- 第15回: まとめと討論: 日本における市民社会の可能性

履修上の留意点 李の社会学演習Ⅰの受講者は、合わせてこの授業を取るのが望ましい。

成績評価の方法 主にレポートで評価するが、平常点(リアクションペーパーと出席率)も加味して総合的に判断する。

参考書 秋元律郎『市民社会と社会学的思考の系譜』(お茶の水書房、1997年)
マイケル・ウォルツァー『グローバルな市民社会に向けて』(日本経済評論社、2001年)
佐藤慶幸ほか編『市民社会と批判的公共性』(文真堂、2003年)
佐藤慶幸『人間社会回復のために——現代市民社会論』(学文社、2008年)

履修コード	061501
科目名	社会学演習Ⅰ
担当者名	牛島 千尋

講義の到達目標(ねらい) 1、2年で学んだ社会学の知識と方法に磨きをかけ、社会的関心事を自分の研究テーマとして結実させるための方向を定めていくことが演習Ⅰの目標である。

講義の内容／授業スケジュール 前期は、社会学の知識と方法を一層深めるために文献を輪読・発表していく。後期は各自のテーマを絞り込み、洗練させ、文献検索と資料収集をし、発表を重ねていく。

履修上の留意点 履修者は、年に3回以上の発表を行う。

成績評価の方法 出席回数、発表内容、演習中の発言、課題を総合して評価します。

教科書／テキスト 特になし。

参考書 その都度紹介します。

履修コード	061301
科目名	社会学演習I
担当者名	坪井 健

講義の到達目標(ねらい) このゼミでは、社会学・社会心理学に関する学習を通して、社会的能力を開発し、社会の中で自己を活かす能力の育成をめざす。具体的には、個々の学生の自主性を尊重し、学生集団の自己教育力を大切にすると共に、学生個人の能力に応じて丁寧な個別指導を通して、学生自身の潜在的な能力の開花をめざし、自信力を育てることを目的とする。

講義の内容／授業スケジュール 具体的な共同研究テーマは、地域と大学・大学と学生・地域とボランティア・学生集団・異文化理解、国際交流・高齢者文化・スポーツ文化・ジェンダー論など領域から、具体的な共同研究テーマを設定して、①文献研究、②データ収集、③整理分析、④報告書作成まで、グループ学習と集団討議を通して実際の研究をする。具体的な共同研究テーマは、毎年変わるが、昨年度実施したリビングライブラリーに関する実践的取り組みを、今後、どのように発展させていくかについても考える。
 <坪井ゼミの年間行事予定>
 「新歓コンパ」(4月)／「ゼミ0B/0G会」(7月)／「研究発表夏合宿」(9月)／オータム研究発表(11月)／「4年生卒論発表会」(12月)／「ゼミ送別会」(1月)／「卒論構想発表春合宿」(3月)

履修上の留意点 このゼミは、教師による知識伝授型の学習ではなく、学生自身の問題発見型の学習を基本とする。従って、ゼミ学習の主体は、学生自身である。また、学習の場は教室に限らない。地域社会や街頭や国内・国外を含む。ゼミ活動を通じて積極的な行動力を養ってもらいたい。また、ゼミでは自分の学習目標を持つこと。仲間との良好な人間関係を築くこと。ゼミの望ましい集団文化育成に協力することを期待する。

成績評価の方法 ①ゼミ活動への参加度、②レポートや報告などの課題達成度により総合的に評価する。

教科書／テキスト 特に、事前に指示しない。必要に応じて指示する。

参考書 授業時間中に指示する。

その他 ゼミは、少人数授業ですので、全員参加が前提です。遅刻・欠席は教師に直接事前連絡すること。ゼミ行事も多岐ですが、ゼミ生が相互啓発しつつ自分の可能性に挑戦する楽しい学生活動の場になってください。

履修コード	061101
科目名	社会学演習I
担当者名	深澤 弘樹

講義の到達目標(ねらい) この演習は、4年次の卒業論文作成に向けた準備を行うためのものであり、論文作成のために必要なスキルを身につけることを目的とする。メディア研究には、制度や産業としてのメディア組織の分析、内容分析を通じたメッセージ分析、受け手研究など様々なアプローチが存在する。文献の講読やゼミ生同士の議論を通して前述のメディア分析の多様な手法を学びながら、各自の問題意識をはっきりさせて卒業論文のテーマを決定する。

講義の内容／授業スケジュール 前期は、各自の関心に沿ってマス・コミュニケーション論の文献を読み、メディア分析の基本的な視点や手法を学んで卒業論文のテーマを絞り込んでいく。後期は、各自が取り組む課題において、文献や資料の収集を行うほか、随時、報告を行い、ゼミ生相互の議論を深めながら分析に必要な方法を検討する。具体的な進め方については、第1回の授業で学生と相談して決めるつもりである。

準備学習 日頃から新聞やテレビニュースに問題意識を持って接し、メディアが抱える課題に対して自分なりの意見を言えるようにしておく。

成績評価の方法 出席状況や報告、議論への参加度合いなどによって総合的に評価する。

教科書／テキスト 受講者と相談の上、決めるつもりだが、近年のメディア研究の文献として以下の書物を挙げておく。

伊藤守編著『よくわかるメディア・スタディーズ』ミネルヴァ書房、2500円、ISBN978-4-623-05206-6
 小玉美意子編『テレビニュースの解剖学』新曜社、1900円、ISBN978-4-7885-1093-7
 藤田真文・岡井崇之編『プロセスが見えるメディア分析入門』世界思想社、2300円、ISBN978-4-7907-1405-7

参考書 ゼミ生の興味関心に沿って適宜指示する。

履修コード	061511
科目名	社会学演習I
担当者名	松信 ひろみ

講義の到達目標(ねらい) 本演習では、現代家族やジェンダーにかかわる諸現象・諸問題に焦点を置き、基礎文献の講読、グループでのフィールドワークや報告と討論、報告書の作成などを行う。一連の作業を通して、卒業論文に向けての研究手法を習得するとともに、卒業論文のテーマの絞り込みと研究の基礎固めを行うことが目的となる。

講義の内容／授業スケジュール 前期は、夏季休暇中のフィールドワーク(ブライド・パレードでの参与観察とインタビュー、および保育園での参与観察とインタビュー)に向けての基礎知識習得を行う。第1回目のイントロダクションの後、いくつかのグループに分かれ、セクシュアリティについての基礎文献の輪読(第2回~5回)、育児支援と保育制度についての基礎文献の輪読(第6回~9回)、フィールドワークについての基礎文献の輪読(第10回~13回)を行う。さらに、フィールドワークの準備(第14、15回)で前期は終了する。後期は、夏季休暇中に行ったフィールドワークについての報告を順次行い(第16回~20回)、その後、報告書の作成を行う(第21回~25回)。さらに、翌年度の卒業論文に向けてのテーマ検討も行う(第26回~30回)。なお、夏季休暇中に4年生と合同で合宿を実施し、4年生の卒業論文についての中間報告を聞くとともに、フィールドワークの結果について中間報告を行う。

履修上の留意点 履修者は夏季休暇中のフィールドワークに参加することが求められる。さらに、前期、後期とも、グループ単位での報告が期待される。なお、本演習履修者は、家族とジェンダー社会学A・Bの講義を履修することが望ましい。

成績評価の方法 平常点(50%)、レポート(50%)

教科書／テキスト 輪読する文献は開講時に指示する。

参考書 必要に応じて紹介する。

その他 ゼミは、出席することはもちろん、参加しなければ意義がない。「恥はかき捨て」のつもりで積極的に自分の意見を発言するように心がけて欲しい。

履修コード	060901
科目名	社会学演習I
担当者名	山田 信行

講義の到達目標(ねらい) この演習では、主として雇用や就職の問題に焦点を当てながら、現代日本における若者が直面している様々な問題を社会的に考察する。参加者は、各自の問題意識を確立することを通じて、4年次の卒業論文執筆につながる研究を行うことが求められる。演習の集団は、大学生活における基本的な活動単位であるため、参加者相互の親睦・交流が深まるように配慮したい。

講義の内容／授業スケジュール 夏休み前(前期)は、演習のテーマに関連した文献の輪読を行う。後期は、数人ずつグループを作って共同研究を行ってもらう。詳細については、参加者と相談して決める。暫定的なスケジュールは以下の通り。
 前期
 1. ガイダンス
 2. 自己紹介と委員の選出
 3～15. 文献購読
 後期
 1. ガイダンス
 2～5. 共同研究の準備(グループ分け、テーマ決め、役割分担の決定)
 6～13. 共同研究の中間報告
 14～15. 卒業論文の構想発表

準備学習 日ごろから、ゼミのテーマに関連した問題関心を醸成しておくこと。
履修上の留意点 演習は講義形式の授業と異なり、あくまで参加する学生が主体的に学習・研究活動する場である。したがって、理由のない遅刻・欠席は厳禁である。
成績評価の方法 平常点による。
教科書／テキスト 参加者と相談して決める。
参考書 適宜指示する。
その他 なし。

履修コード	061401
科目名	社会学演習I
担当者名	李 妍炎

講義の到達目標(ねらい) 貧困と格差、雇用と保障、教育と子育て、まちづくりや環境、犯罪や災害、国際紛争、異文化間の葛藤、移民や外国人の問題・・・我々が直面する問題の多くは、政府と大企業に任せるだけでは解決できない。人々の生活を脅かすこれらの問題に対して、数多くのNPOやNGO、社会的企業、市民団体、地域組織、学生グループがそれぞれユニークな方法でアプローチしている。それらが、市民社会のもっともフレッシュで力強い動きを創り出している。この演習は、これらの動きを観察し、研究していく。分野と研究対象の選定、実際の観察、資料収集、報告と討論、報告書作りの諸作業を通して、市民社会の諸事象をより深く理解していただくだけではなく、特定の1つのテーマを中心に、完成度の高い研究を目指していくプロセスを全員に経験してもらうことも、目的とした。

講義の内容／授業スケジュール 市民社会に関する基本的な理論と現状の概要を全員で学んだ上で、ワールドカフェなどの討論技法を用いて、特定の社会問題の分野と研究対象を選び出す。その後グループ単位で観察と資料収集を行い、演習でプレゼンテーションと討論を行う。終了時まで、一冊の研究報告書をメンバー全員で作成する。スケジュールはメンバーと相談の上修正していくが、現段階での予定は以下のとおりである。
 1. オリエンテーション(第1回)
 2. 討論の技法を身につけよう(第2回、第3回、第4回)
 3. 演習のテーマについての討論と情報の共有(第5回～第7回)
 4. 研究対象についての討論と選定およびグループ分け(第8回～第10回)
 5. 研究対象について観察と資料収集を行い、プレゼンテーションを行う(第11回～第18回、夏休みに中間検討会として、合宿を行う)
 6. 報告書作成(第19回～第25回)
 7. 報告書の修正と討論(第26回～第30回)

履修上の留意点 市民社会論を同時に履修することが望ましい。参加の意欲と仕事に対する責任感が要求される。
成績評価の方法 平常点で評価する。
参考書 その都度、指示する。

履修コード	062101
科目名	社会学演習II
担当者名	牛島 千尋

講義の到達目標(ねらい) 自分の研究を進め、最終的に卒業論文として完成させることが到達目標である。

講義の内容／授業スケジュール 履修生の研究進行度を考慮しながら、個別指導、グループ指導を織り交ぜて柔軟に進めていく。

成績評価の方法 出席状況、発表内容、レジュメの完成度などから、総合的に評価する。

履修コード	062001
科目名	社会学演習II
担当者名	坪井 健

講義の到達目標(ねらい)	このゼミでは、三年の「社会学演習I」に引き続き、大学における社会学学習の総括として自分自身のオリジナルな社会学研究「卒業論文」作成のための指導を行うことを目的とする。
講義の内容／授業スケジュール	具体的には、3年次年度末3月の「卒論構想春合宿」で卒論構想を固め、4月以降、①文献研究、②調査の企画と実施などを行い、7月末各自の研究内容の確認、9月中旬「卒論中間報告」で主要研究結果を口頭発表する。10月以降下書き、11月原稿修正と清書、12月初旬に卒論を提出する。提出後、3年ゼミ生を対象に「卒論報告会」(12月)。最後に「坪井ゼミ卒業論文集」を作成。1月末の「口頭試問」で坪井ゼミを終了する。 (坪井ゼミの年間行事予定) 「新歓コンパ」(4月)／「ゼミOB/OG会」(7月)／「卒論中間報告ゼミ合宿」(9月)／「卒論発表会」(12月)／「新年会」(1月)／「ゼミ送別会」(1月末)／
履修上の留意点	最終学年の4年次のこのゼミは、就職活動などと競合することもあるが、卒業論文は必修科目であり、書かなければ卒業できないことをしっかり認識し、卒論研究ノートを常に携帯して、空き時間等を上手に利用して、図書館等で自主的・計画的に研究を進めることが肝要です。坪井ゼミでは、基本的に3年次の3月卒論構想春合宿で、卒業論文の基礎研究が完了し、研究テーマと研究方法も明確になっているので、就職面接の際にも自信を持って自分の卒論研究を語るができる利点がある。それを励みにして、しっかり取り組むこと。
成績評価の方法	①卒論への取り組み方、②中間報告などの課題達成度等により総合的に評価します。
参考書	その都度、適切な参考文献を指示する。
その他	疑問点や問題点などを日常的に教師に相談する積極性を厭わないことをお勧めします。

履修コード	061801
科目名	社会学演習II
担当者名	深澤 弘樹

講義の到達目標(ねらい)	この演習では、大学における学習の集大成である卒業論文の作成に取り組む。各自が設定した課題において、報告を重ねながら論文の骨組みを固めていき、ゼミ生同士の活発な議論を経て卒業論文を書き上げることを目標とする。
講義の内容／授業スケジュール	前期は、各自のテーマに沿って論文の大まかな内容を報告してもらい、分析手法を検討したうえで論文の構成を固める。分析対象となるデータは前期のうちに収集しておくことが望ましい。後期は、随時、執筆した部分の報告を行い、内容に対しての議論を深めながら論文を書き上げていく。なお、8月下旬から9月にかけてゼミ合宿を行い、途中経過を発表してもらう。
履修上の留意点	大学生活の総仕上げとなるのが卒業論文である。各自が主体的に論文作成に取り組んでほしい。
成績評価の方法	出席状況や順番に行う卒業論文執筆に向けた報告、議論への参加度合いなどによって総合的に評価する。
参考書	卒業論文のテーマによって適宜指示する。

履修コード	062311
科目名	社会学演習II
担当者名	松信 ひろみ

講義の到達目標(ねらい)	本演習では、卒業論文の作成を目指し、個人研究の指導を行う。各々の学生のテーマに沿った研究に基づき、無事卒業論文を執筆できることが最終的な目的となる。
講義の内容／授業スケジュール	前期は、家族社会学・ジェンダー社会学の基本的な分析枠組みを教授するとともに、個々人の研究の進捗状況について報告してもらうことが中心となる。第1回のイントロダクションの後、第2回～5回までに、論文のタイトルを順次報告し、5月中旬にタイトルを決定する。第6回～15回までは、卒業論文の進捗状況を個々報告し、随時、関連論文の輪読を行う。 後期(第16回～28回)は、執筆中の論文についての個人指導が中心となるが、進捗状況を随時報告をしてもらい、その内容についてゼミ内で討論を行う。論文を提出後は、完成論文についての報告会(第29回、30回)を実施する。 なお、夏季休暇中には、3年生と合同で合宿を実施し、卒業研究の中間報告をしてもらう。
履修上の留意点	論文作成のためには、ゼミへの出席ばかりでなく、自発的な取り組みが要求される。文献・資料収集、調査など、自分の足を使い、積極的に論文作成に取り組んで欲しい。
成績評価の方法	平常点による。
教科書／テキスト	特に指定しない。
参考書	特に指定しない。
その他	大学生活最後のゼミである。論文の作成はもちろんだが、飲み会や合宿を通じてゼミ生同士の交流も図り、有意義な時間として欲しい。

履修コード	062201
科目名	社会学演習II
担当者名	山田 信行

講義の到達目標(ねらい)	卒業論文の執筆指導を行う。
講義の内容／ 授業スケジュール	開講時に指示する。概ね、以下の通り。

- 前期
1. ガイダンス
2～15. タイトルの決定と論文構成の検討
- 後期
1. ガイダンス
2～7. 最終構成案の検討
8～15. 草稿の検討

準備学習	とくになし。
履修上の留意点	卒業論文は、単なる学生時代の勉学の集大成にととまらず、個々の学生が生まれおちてから身につけた知識・能力を総動員して執筆するものである。力作を期待している。
成績評価の方法	平常点による。卒論の提出が単位取得の条件となる。
教科書／テキスト	なし。
参考書	適宜指示する。

履修コード	062301
科目名	社会学演習II
担当者名	李 妍炎

講義の到達目標(ねらい)	この演習は、受講生の卒業研究の指導とサポートを主たる目的とする。それぞれが研究意欲を抱くような研究テーマを見つけていき、研究手法の検討、基礎データの収集、先行研究のサーベイ、社会調査の企画と実施、調査データの整理と分析、卒業論文の作成、という一連の卒業研究のプロセスを、メンバー全員で発表と討論を重ねていくことによって、ともに経験していく。
--------------	--

講義の内容／ 授業スケジュール	演習の開始に先立ち、春に合宿を行い、卒論研究構想発表会を行う。学期開始後は、基本的には以下のスケジュールに従って進めていく。 1. (合宿での討論を受けて) 卒業研究構想修正案発表 (1-4回) 2. 先行研究のサーベイ結果に関する発表会 (5-10回) (発表終了後、順次補足と修正、その他の基礎データの補充作業に入る) 3. 卒業論文「序論」部分ドラフト発表会 (11-15回) (夏休みにドラフトを原稿にする) 4. 卒業研究に必要な調査作業を行い、中間報告を行う (16-21回) (調査作業を行いながら、データの整理と分析作業を進める) 5. 卒業論文「本論」部分ドラフト発表会 (22-25回) (発表終了後、順次原稿化していく) 6. 卒業論文「結論」部分及び参考文献、付録資料部分発表会 (26-30回) (卒業論文完成)
--------------------	---

準備学習	学期開始前の春休みに、卒業研究のテーマの明確化に向けて、必要な各種準備作業を行っておく。
履修上の留意点	充実した卒業研究のためには、本当に研究意欲が感じられるようなテーマを見つけていかなければならない。また、各種発表のスケジュールをしっかりと守ることも、卒業研究の完成への道標となるため、怠ることなく、しっかりと一つ一つの締め切りを守りながら参加してほしい。
成績評価の方法	演習への参加の姿勢、卒業研究に取り組む姿勢、卒業研究の成果を踏まえて、総合的に評価する。

履修コード	057501
科目名	社会学概論
担当者名	坪井 健

講義の到達目標(ねらい) この講義は、社会学を初めて学ぶ学生を対象に、社会学の見方・考え方の基礎を学ぶことを目的とする。具体的には、社会現象特有の性格の社会的分析例、社会学の基礎的概念の使い方、さらに現代社会の諸問題をトピックスとして取り上げ、さまざまな領域の社会的な研究を具体的研究例を通じて理解する。そして、2年次以後の社会学研究の基礎づけと方向づけに資する内容の講義を行う。

講義の内容／授業スケジュール

1. はじめに -講義の方針と受講の仕方-
2. 社会学とは何か -3つの方法-
3. 私の社会学観 -人生と社会学の経験-
4. 社会現象の不思議1 -予言の自己成就①-
5. 社会現象の不思議1 -予言の自己成就②-
6. 社会現象の不思議2 -自殺的予言と潜在的機能-
7. 社会現象の不思議3 -社会的ジレンマ①-
8. 社会現象の不思議3 -社会的ジレンマ②-
9. 社会現象の不思議4 -歴史のパラドックス-
10. 社会現象の不思議5 -組織のパラドックス-
11. 社会現象の不思議6 -犯罪のパラドックス①-
12. 社会現象の不思議6 -犯罪のパラドックス②-
13. 社会現象の不思議7 -情報社会のパラドックス①-
14. 社会現象の不思議7 -情報社会のパラドックス②-
15. 社会現象の不思議8 -まとめ-
16. 社会学の基礎概念1 -社会的行為-
17. 社会学の基礎概念2 -相互作用-
18. 社会学の基礎概念3 -社会的地位-
19. 社会学の基礎概念4 -社会的役割-
20. 社会学の基礎概念5 -文化①-
21. 社会学の基礎概念5 -文化②-
22. 社会学の基礎概念6 -価値と規範-
23. 社会学の基礎概念7 -集団と組織-
24. 社会学の基礎概念8 -パーソナリティと社会化-
25. 社会学の基礎概念9 -社会的性格と消費社会論-
26. 現代社会論1 -グローバル化する世界-
27. 現代社会論2 -働くことの意味-
28. 現代社会論3 -情報社会の陥穽-
29. 現代社会論4 -社会参加戦略の社会学-
30. まとめ -社会学の仕方-

履修上の留意点

1. 授業時間中の私語は厳禁する。日に余る場合は、出席停止とし単位を与えない。
2. 毎回、授業の感想や意見を記入するリアクションペーパーを配布するので、積極的に記入すること。
3. 随時、参加型授業を試みるので、積極的に参加してもらいたい。
4. 各テーマは1時間で完結の予定である。内容や順序は変更することもある。なお、年数回ビデオ教材を使って、社会認識を深める工夫をする予定である。
5. 授業中は配布プリントを参考にノートをとる、さらに深く研究する人は、紹介した文献を参考に自主的に学習することが望ましい。

成績評価の方法

1. 出席+毎時間の受講態度、感想、意見、参加度など (30%)
2. 課題レポート・期末試験 (70%)

なお、この授業は、出席は遅刻も含めて厳密にカウントしています。また、成績評価の具体的方法は、3回(初回講義時・夏休み前講義時・最終回講義時)説明し、受講生に公表しています。ご注意ください。

教科書／テキスト 教科書：坪井健編著『新しい社会学を学ぶ』学文社

参考書 その都度、指示する。

履修コード	057701
科目名	社会学基礎研究
担当者名	山田 信行 坪井 健 深澤 弘樹 牛島 千尋 李 妍炎 松信 ひろみ

講義の到達目標(ねらい) 社会学的研究法について、社会学研究の実際例と研究法の基礎をマスターすることを目的とする。

講義の内容／授業スケジュール 前半は、全教員リレー方式で社会学研究例の講義をする。後期は、ゼミ形式で研究法(文献へのアクセス・レポートの書き方・プレゼンテーションの仕方など)を学ぶ。

前期

1. ガイダンス
2. 学外オリエンテーションの報告会 (1)
3. 学外オリエンテーションの報告会 (2)
- 4~15. リレー講義

後期

1. ガイダンスおよび自己紹介など
- 2~15. 社会学研究法に関するゼミ

準備学習 少しでも、社会問題などに関心を持つ姿勢が望ましい。日ごろから、社会科学の文献に親しんでおくこと。

履修上の留意点 毎回出席が義務付けられている。また前期と後期に必ずレポート提出の義務がある。

成績評価の方法 出席点と2回のレポートにより評価される。

教科書／テキスト こちらで指定し配布する。

参考書 安藤喜久雄編『わかりやすい論文レポートの書き方』(実業之日本社)1999年

履修コード	060001 060002
科目名	社会学原論
担当者名	橋爪 敏

講義の到達目標(ねらい) 本講義の対象は社会学科の2・3・4年生、ならびに「中学校社会科、高等学校地・歴史科、公民科」にかかわる教職科目の受講者である。したがって、「社会学」とは何か、いかなる学問かにはじまり、さらに「中学校社会科、高等学校地・歴史科、公民科」の基礎をなす学問としての、<社会科学としての「社会学」>とは何かにかかわる問題を取り上げたい。
いずれにせよ、社会学的なモノの見方、考え方を理解し、それを踏まえて、社会現象を理解し、説明する<社会科学>についての認識を深めたい。

講義の内容／授業スケジュール 前期1)～8)社会科学とは何か、社会科学の対象と方法、社会科学としての社会学9)～15)歴史から見る社会学、総合社会学、百科全書的 sociology、マルクス主義の影響。後期は16)～20)フランスにおける現代社会学への歩み21)～25)ドイツにおける現代社会学への歩み26)～30)現代社会学の展開を概観する事により、社会現象に対する科学的取り組みを理解し身に付ける事にしたい。

成績評価の方法 学年末の定期試験で評価する。

教科書／テキスト 安藤喜久雄ほか著『社会学概論』学文社

参考書 適宜指示する。

履修コード	058221
科目名	社会学古典研究
担当者名	山田 信行

講義の到達目標(ねらい) なかなか、1人では通読することが難しい社会学の古典をグループで輪読することによって、社会学の基礎的な理論や概念の理解を深める。

講義の内容／授業スケジュール 社会学の古典を1冊とりあげて、できるだけ多く、その本文を購読し、社会学の考え方や基礎概念的な理解を目指す。具体的にとりあげる文献については、開講時に指示する。

準備学習 できるだけ、社会学の古典理論に親しんでおくことが望ましい。

履修上の留意点 ゼミ形式で授業を行うので、出席は極めて重要である。理由がない遅刻・欠席は厳禁である。

成績評価の方法 平常点および学期末レポートによる。

教科書／テキスト 開講時に指示する。

参考書 適宜、指示する。

その他 意欲的な学生の参加を期待する。

履修コード	058401
科目名	社会学史
担当者名	李 妍炎

講義の到達目標(ねらい) 社会学の学説を取り上げ、社会学の歴史と基本的な考え方について学習する。社会学という学問の概要を把握してもらおうと同時に、単なる「歴史」にとどまらず、社会学の基本的発想法(社会学的想像力)についても理解してもらおう。

講義の内容／授業スケジュール 前期は、社会学の構想期、形成期と展開期を中心に、20世紀半ばごろまでの学説を紹介する。後期は20世紀後半から現代に至る「現代社会学理論」を取り上げる。受講者の理解度に応じて進度を調整するが、以下を予定している。ガイダンスと社会学の歴史の初段階(第1回)、構想期のA. コント(第2回、第3回)、構想期のH. スペンサー(第4回、第5回)、形成期のM. ウェーバー(第6回、第7回)、形成期のE. デュルケム(第8回、第9回)、形成期のG. ジンメル(第10回、第11回)、形成期のC. H. クーリーとG. H. ミード(第12回)、形成期のシカゴ学派(第13回)、展開期のT. パーソンズとR. K. マートンの機能主義的 sociology(第14回、第15回)、中間考察(第16回)、パーソンズ批判の諸理論:相互作用論を中心に(第17回、第18回)、A. シュッツと現象学的 sociology(第19回)、大衆社会学論(第20回、第21回)、M. フーコーと管理社会学(第22回、第23回)、P. ブルデューと格差社会学(第24回)、N. ルーマンとシステム論の刷新(第25回、第26回)、J. ハーバーマスの批判的 sociology理論(第27回、第28回)、A. ギデンズと再帰性の近代(第29回)、まとめと考察(第30回)

履修上の留意点 「社会学」という名称は、シンプルな名前であるにもかかわらず、その正体を知るのには容易ではありません。本講義は、「社会学」とその歴史についての一定のイメージをもつことをめざしています。他学部、他学科の友人にあなたの専攻している学問(社会学)について、説明できるようにしましょう。

成績評価の方法 原則として中間と最終の試験(2回)、出席率も考慮する。

教科書／テキスト 新睦人編、『社会学のあゆみ』、有斐閣、1155円(税込)、ISBN978-4641088573
新睦人編、『社会学のあゆみII』、有斐閣、1155円(税込)、ISBN978-4641090460
新睦人編、『新しい社会学のあゆみ』、有斐閣、2205円(税込)、ISBN978-4641123021

参考書 富永健一『思想としての社会学』、新曜社、8715円(税込)、ISBN978-4788510814

履修コード	058861
科目名	社会学特殊講義 D
担当者名	深澤 弘樹

講義の到達目標(ねらい) 私たちは、新聞やテレビから伝えられる情報を通して現実を知ることができるが、その「現実」とは情報の送り手の意図によって切り取られ構築された「社会的現実」であることを忘れてはならない。本講義では、新聞記事やニュース番組を社会的構築物ととらえて、それらの形成プロセスやメッセージの内容について考察することで日々の報道内容を読み解く力を養うことを目的とする。具体的には、ニュースの定義、生産過程、ジャーナリズム機能のほか、人々をニュースへと導くキャスターの意識やふるまいにも踏み込みながら、マス・メディアによる社会的現実の構築作用と世論形成について考えていく。

講義の内容／授業スケジュール 第1回：ガイダンス、第2回：ニュースとは何か、第3回：ニュースの生産過程、第4回：ニュースバリューとニュースの制約、第5～6回：物語としてのニュース、第7～8回：テレビニュースの娯楽化、第9～11回：テレビニュースにおけるキャスターの役割、第12～13回：世論を考える、第14回：ニュースの今後、第15回：まとめ

準備学習 日常の新聞記事やテレビニュースを例として講義を進めるので、日々の時事的なトピックスを常にチェックした上で授業に臨んでほしい。

成績評価の方法 学期末試験（レポートの予定、7割）のほか、出席や授業での小テストなどの平常点（3割）を加味して総合的に評価する。

教科書／テキスト 特に使用しない。毎回レジュメを配布して授業を進める。

参考書 授業中に随時、指示するが、基本的な参考書として以下の文献を挙げておく。

大石裕・岩田温・藤田真文著『現代ニュース論』有斐閣、1800円、ISBN4-641-12109-5

履修コード	058261
科目名	社会参加実習
担当者名	李 妍炎

講義の到達目標(ねらい) 参加型実践学習を通して、2つの目標を達成したい。1つは、特定の社会問題に関する理解を深めてもらうこと、もう一つの目標はより重要であり、それは受講生に、参加したい現場を自ら選んでもらい、いかなる問題意識を抱いて実践するのかについて考えてもらい、参加するための準備作業を行ってもらい、実際に参加し、さらに成果をまとめてもらうという一連のプロセスをすべて経験してもらうことである。それによって、受講生の各種実践能力を高めていきたい。

講義の内容／授業スケジュール 社会参加実習のキーワードは「参加」と「実習」である。実際に社会問題が起きている現場、その問題に取り組む実践の現場に身を置き、グループ単位で参加することによって実践的に学習する。具体的には、社会問題に携わるNPO/NGO、市民団体、住民組織、社会的企業での参加実習を想定している。以下のスケジュールで行う。第一部はさまざまな討論技法を用いて、参加したい現場選びと参加の問題意識の明確化、参加計画の制定などの準備作業を行う（第1回～第10回）。第二部は、各グループの参加計画に従って、グループ・ミーティングの手法で事前のデータ集めと参加交渉をしてもらう（第11回～第15回）。第三部は、主に夏休みを利用して、参加を実践する。なお、長期にわたるインターンシップについてもサポートする。第四部は、各グループが、順番に参加のプロセス、問題点についてプレゼンテーションを行い、討論を行う（第16回～第25回）。第五部は、実践の経過と成果、反省点について報告レポートおよび添付資料をグループ作業で作成してもらう（第26回～第30回）。

準備学習 受講希望者は、事前にNPO/NGO、市民団体と住民組織、社会的企業とはどのような組織なのかについて、基本的な知識を身につけておく必要がある。

履修上の留意点 参加型実習には、参加の意欲および責任感を必要とする。また、討論の技法を多く採用して進めていくため、それらにも留意し、身につけてもらいたい。

成績評価の方法 グループ内の相互評価が点数の50%、レポート、添付資料が残りの50%を占める。

参考書 中野民夫、2009、『ファシリテーション革命』岩波アクティブ新書。
堤公俊、2009、『ワークショップ入門』日経文庫（新書）。

関連リンク <http://www.npo-hiroba.or.jp/>

履修コード	058331 058332
科目名	社会心理学 A
担当者名	坪井 健

講義の到達目標(ねらい) この授業は、われわれが日常的に出会うテーマについて、社会心理学の興味深い研究成果を紹介する。社会心理学は、元来社会学と心理学の境界科学であり、社会学の領域から見れば、かなり心理学的色彩の強い研究が含まれる。この社会心理学 A（前期）では、対人関係、集団的影響などの具体的テーマを中心に、ビデオ教材を利用したり、小実験や心理テストなど多彩な方法を用いて、身近な日常テーマの役立つ授業を展開したいと考えている。

講義の内容／授業スケジュール

1. はじめに -講義の方針と受講の仕方-
2. 対人認知と印象形成 -未知の人をどう認知するか-
3. 対人関係と自己開示 -オタクと日本人の自己開示-
4. 親密性の社会心理学 -若者の友人関係-
5. 日本人の対人関係戦略 -安心社会から信頼社会へ①-
6. 日本人の対人関係戦略 -安心社会から信頼社会へ②-
7. 自信の社会心理学 -あなたは自分に自信がありますか-
8. 対人関係と対人魅力 -対人魅力の条件とは何か-
9. 恋愛の社会心理学 -恋愛と友情は違うのか-
10. 援助行動抑制要因の研究 -何故、人は見て見ぬふりをするのか-
11. 社会的手抜きと社会的促進の研究 -みんなと一緒なら食事はずむ-
12. 同調行動と集団的意志決定 -集団の意志決定とその危険性-
13. カウラ事件とその社会心理学的考察 -集団脱走はなぜ起こったか-
14. 同調行動と頻度依存行動 -いじめの心理-
15. まとめ

履修上の留意点 ビデオ視聴が追加されるので、上記予定は変更する場合がある。授業では資料を配布する。興味を持ったテーマは、紹介文献を参考に各自の関心を深めてもらいたい。リアクションペーパーを配布するので、しっかり記入すること。

成績評価の方法 平常点（出席＋リアクションペーパーの内容＋参加度）50%、課題レポート50%

教科書／テキスト 授業中、プリントを配布する。

参考書 その都度指示する。

履修コード	091001
科目名	社会政策
担当者名	光岡 博美

講義の到達目標(ねらい) 社会政策という科目は、経済学のなかでも古い歴史をもっている。その詳細については最初の講義で解説する。この講義計画では、社会政策とは、資本主義社会の各々の時代において発生する社会問題の原因を学問的に究明し、その問題を解決するための政策を多面的に研究することを目的とする学問である、と定義しておく。そして、この場合、社会政策という学問のなかで特に重視されてきたのは、労働問題や社会保障・福祉etcといった社会問題である。経済学という研究の分野は、財・サービスの生産・分配・消費に関する研究としてイメージされるが、これにたいして社会政策は労働力と生命の再生産が、どのような社会・経済のシステムとの関連で展開されているのかを研究する学問であるといえる。

このような大きな領域を全般的に講義することは不可能であるから、この講義では現代の日本社会を念頭に置き、そこで重要と思われるテーマを設定し、各々のテーマについて講義、解説する。

講義の内容／授業スケジュール 年間の具体的な講義スケジュールは、(1)現代日本の労働・雇用問題(5回)、(2)社会政策、労働関係、労働組合の理論(5回)、(3)戦後日本の労使関係史(6回)、(4)福祉国家の歴史と理論(3回)、(5)日本型福祉の現実(3回)、(6)現代日本の女性労働、フェミニズム論、(3回)を予定している。

履修上の留意点 受講者数が多いせいもあり、私語によって、授業が円滑に進行しないことがある。授業に支障が生ずる場合、厳しい措置を取る。

成績評価の方法 期末試験で評価する。具体的な内容は授業時に詳しく説明する。

参考書 講義の内容と関連して参考書を適時指示する。また、毎講義ごとにレジュメを配布する。

履修コード	057601
科目名	社会調査
担当者名	牛島 千尋

講義の到達目標(ねらい) 社会調査とは、私たちの周囲に生起する社会的現象を解明することを目的として、データを収集し、記録・整理し、分析するという一連の過程を指す。本講義は社会学の重要な方法としての社会調査を学習していくが、しかし、単に技法の習得だけでは社会学の真の研究にはつながらない。本講義では、技法の講述に加えて、これまでに行われた実証的研究を紹介しながら、さらに、社会調査をする際の心構えについて理解を深めていきたい。

- 講義の内容／授業スケジュール**
1. 社会調査の意義と社会調査における倫理的配慮
 2. 社会調査の範囲と系譜1—行政目的の統計調査、社会福祉(事業)目的の調査—
 3. 日本における社会調査の始まりと発展—ビデオ—
 4. 社会調査の範囲と系譜2—市場調査、世論調査、研究目的のための調査—
 5. 理論化の道程—帰納法と演繹法、命題・仮説・検証—
 6. 社会調査の二つの方法1—量的方法と質的方法—
 7. 社会調査の二つの方法2—量的方法と質的方法—
 8. 量的方法を使用した実証的研究—デュルケームの「自殺論」—
 9. 質的方法を使用した実証的研究—デュルケームの「社会分業論」—
 10. 仮説の修正と新たな発見—メーヨーの「ホーソン実験」—
 11. 社会調査のさまざまな技法1—横断的調査と縦断的調査—
 12. 社会調査のさまざまな技法2—モレノのソシオメトリーとその応用—
 13. 社会調査のさまざまな技法3—ホワイトの「ストリート・コーナー・ソサエティ」と参与観察—
 14. 既存データ、既存資料の収集と使い方1—国勢調査データ、官公庁統計
 15. 既存データ、既存資料の収集と使い方2—各種民間調査データと公開個票データ—
 16. 調査実施過程と社会調査における倫理的配慮
 17. フィールド・ノートの作成、調査票を使用した面接調査の手順—
 18. 資料の収集とリスト作成、作業仮説の設定と質問項目の作成
 19. 作業仮説の設定と質問項目の作成
 20. 調査方法の選定と準備1—非構成的技法と構成的技法—
 21. 調査方法の選定と準備2—全数調査と標本調査、母集団、標本数と誤差—
 22. 調査票の作成1—質問文作成の注意点—
 23. 調査票の作成2—選択肢作成の注意点—
 24. 調査票の作成3—回答形式の種類、コードブック作成の注意点—
 25. 質問文を使用した調査の方法—個人面接調査・留置き調査・郵送調査法・電話調査・集合調査・インターネット調査—
 26. 標本抽出の方法1—単純無作為抽出法、系統抽出法—
 27. 標本抽出の方法2—層化抽出法、多段抽出法、有意抽出法—
 28. データの整理と集計の準備—データの整理、データ入力、データのクリーニング、論理チェック、アフター・コーディング—
 29. まとめ
 30. 後期試験

履修上の留意点 必修科目なので、オリエンテーションぬきで第一回から講義に入ります。

成績評価の方法 出席状況、授業中のレポート提出、後期試験(持ち込み不可)によって評価します。

教科書／テキスト 森岡清志編『ガイドブック 社会調査 第2版』日本評論社、2007年

履修コード	060311
科目名	社会調査実習
担当者名	三田 知実

講義の到達目標(ねらい) 本講義は、社会学における質的調査の方法を実践的に理解し、レポート、報告書、そして卒業論文を作成するための、基礎的知識を習得することを目的とする。より具体的にいうと、①研究の問いをたてる。②先行研究を調べ、③質的調査の方法を用いてデータを収集する。そして④データ分析を帰納的に起こすことによって、知見をみいだすという一連のプロセスを習得する。以上の4つのスキルを身につけることが本講義の到達目標である。

講義の内容／授業スケジュール 【前期】
 第1回 イントロダクション——社会調査とはなにか？ 第2回 質的調査とはなにか？（前半） 第3回 質的調査とはなにか？（後半） 第4回 質的調査の諸方法①——フィールドワーク 第5回 質的調査の諸方法②——インタビュー法 第6回 質的調査の諸方法③——参与観察法（前半） 第7回 質的調査の諸方法③——参与観察法（後半） 第8回 質的調査の諸方法④——アクション・リサーチ 第9回 質的調査の諸方法⑤——ライフストーリー法 第10回 調査における注意点と調査倫理 第11回 レポート・報告書・論文の執筆方法①——問い・目的・方法・構成を考える 第12回 レポート・報告書・論文の執筆方法②——調査データをどのように分析するか？ 第13回 レポート・報告書・論文の執筆方法③——どのようにデータを記述し、説明するか？ 第14回 フィールドに出かけよう！（前半） 第15回 フィールドに出かけよう！（後半）

【後期】
 第16回 実習①——問いと仮説をたてる 第17回 実習②——調査対象を決める 第18回 実習③——調査対象者とアポイントメントをとる 第19回～第25回 実習④——じっさい対象地にでかけ、調査を徹底的におこなう 第26回・第27回 実習⑤ データをまとめ、分析をおこなう 第28回～第30回 報告書の執筆

履修上の留意点 調査グループを形成し、調査プロジェクトをたてながら、報告書を完成させることが本講義の目標である。とくに本講義においては、担当者および学生のチームワークが必要不可欠となってくる。このような理由から、積極的な参加意思をもった学生に履修してもらうのが、担当者は望ましいと考えている。

成績評価の方法 講義、フィールドワークへの積極的参加度、およびレポートや報告書の完成度による総合評価とする。原則として3回以上、自己都合による欠席をしたばあい、単位は認定しないので、注意すること。

教科書／テキスト 佐藤郁哉, 『フィールドワーク 増訂版』新曜社, 2,310円 ISBN:9784788510302

参考書 使用しない。講義において、担当者オリジナルの講義レジュメと資料を配布する。また随時Power Pointを駆使した授業展開をおこなう。

その他 講義やフィールドワークにかんする相談があれば、担当者に気軽に申し出ること。

履修コード	060321
科目名	社会調査実習
担当者名	二方 龍紀

講義の到達目標(ねらい) 学生が社会調査の全過程に主体的に関わることで、社会調査を企画・実施するために必要な能力を獲得することを目的とする。受講学生は先行研究の整理から仮説構築、調査票の設計を行い、授業内でサンプリング、調査実施、データ入力と集計までを経験する。あわせて、民間調査会社のインターネット調査（「日常生活一般調査」）および東北大学「教育と社会に対する高校生の意識調査」のデータを用いて詳細なデータ分析を行う。種類の異なる調査票とデータを比較することで、調査の企画に適した調査方法や調査票の設計、コーディング方法、また、二次データ分析の利点と注意点を学ぶ。この授業により、(1)社会調査を企画・遂行する力、(2)自らの問題意識をもとに先行研究をレビューし仮説を構築する力、(3)データ分析の技法、(4)結果の報告の仕方、さらに(5)社会調査者として必要な倫理観を身につけることを目指す。

講義の内容／授業スケジュール 前期は、社会調査の企画から調査データの簡単な集計までを行う。
 1. 社会調査の基本的知識の再確認と既存調査の設計の検討
 2. 調査テーマの設定と調査設計
 3～5. 先行研究の整理と仮説の構築
 6～7. 調査票の作成（質問項目の配置やワーディングの検討など）
 8. 調査対象者への調査依頼文とあいさつ文の作成
 9. 大学の在校生名簿を利用したランダム・サンプリング
 10. 受講学生間での調査実施（調査票配布・回収）
 11～13. 調査票のチェックとコーディング、データ・クリーニング
 14～15. 調査データの単純集計
 後期は、二次データを用いた分析から報告書作成までを行う。
 16～25. 各自の仮説にもとづいたデータ分析
 26～30. 報告書の作成
 データの分析から報告書の作成までの間に、随時、口頭報告の機会を設けて受講学生全員で内容を討議する。

履修上の留意点 この授業で後期に報告書をまとめるにあたっては、量的調査の方法を理解している必要があるため、前期の「社会統計学演習」を同時に履修するか、または、昨年度までに履修済みであること。

成績評価の方法 平常点（出席、討論・作業への取り組み）＋報告書レポート

教科書／テキスト なし。

履修コード	060301
科目名	社会調査実習
担当者名	松信 ひろみ

講義の到達目標(ねらい) 1. 2年次で学んだ社会調査に関する知識を生かし、一連の社会調査のプロセスを体験することによって、現実の社会を分析する手法を会得することを目的とする。
参加者は、調査実習のクラス内で実施される調査を通じて、問題意識の仮説化、調査の企画・設計から調査票の作成、サンプリング、データの収集と入力までを経験する。さらに、二次データ（東北大学の研究グループによって実施された高校生に対する意識調査、および民間の調査会社が実施したインターネットによる「日常生活一般調査」）を用いて、データの詳細な分析方法を学び、報告書の作成を行う。二種類の異なったデータを用いることで、調査企画に適した調査法や調査法の設計、コーディング方法を学ぶとともに、二次データの利点と注意点、社会調査を実施する上での倫理的観点をも身につけることを目指す。

講義の内容／授業スケジュール 前期はまず受講生の討議に基づき、①調査テーマの決定と調査の設計（1～2回目）、②仮説の検討（3～5回目）、③調査票の作成（6～10回目）、を行う。調査票の作成においては、使用する二次データの調査設計と照らし合わせながら、項目の調整、配置、ワーディングなども検討する。さらに依頼文、あいさつ文の作成についても学ぶ。また、調査票の作成を進めながら、④駒澤大学の社会学科の在学生名簿からランダムサンプリングを実施し、標本抽出についても体験する（11回目）。社会調査実習のクラス内において、調査員を決め、⑤調査票の配布、回収を行い（12～13回目）、⑥回収した調査票のチェック、コーディング、データ入力を行う（14～15回目）。⑦データのクリーニングを実施し（16回目）、データを確定させら上で、単純集計などの簡単な集計を行う（17回目）。その後は、二次データを用いて、各自の仮説に基づいたデータの分析をSPSSを用いて行う（18～22回目）。さらに、それらの分析結果に基づき、⑨報告書の執筆、作成を行う（23～25回目）。報告書の作成にあたっては、各自で執筆した原稿について受講生全員で検討する（26～30回目）。

履修上の留意点 本実習を履修する学生は、「社会統計学演習」を既に履修済みか同時履修すること。
成績評価の方法 平常点（出席、および調査への取り組み方）（50%）、報告書用のレポート（50%）
教科書／テキスト 適宜指示する
参考書 適宜指示する
その他 毎回の出席が基本であり、授業外の作業や課題も多いため、自ら積極的に取り組む姿勢を忘れないで欲しい。

履修コード	060201
科目名	社会統計学演習
担当者名	二方 龍紀

講義の到達目標(ねらい) 社会学的データ分析で用いる基礎的な多変量解析法について、その基本的な考え方について学ぶとともに、主要な計量モデルについての講義と実習を行なう。データから社会的に意味のある結果を導き出すための方法として、重回帰分析をメインに、因子分析、主成分分析、クラスター分析などをとりあげ解説する。また、実際のデータを用いて統計処理ソフト（SPSS）による実践的手法を習得する。解析ソフトの使用法の習得だけでなく、各手法の考え方やその結果の意味を理解することに重点を置き、多変量解析を使用したレポートの書き方についても指導する。

講義の内容／授業スケジュール 1 統計分析の基礎1：要約統計量(復習)。
2 統計分析の基礎2：2変数間の関係 (1) 散布図と相関係数。
3 統計分析の基礎3：2変数間の関係 (2) クロス表とカイ2乗検定。
4 統計分析の基礎4：多重クロス表の分析。
5 統計分析の基礎5：平均の差の検定。
6 回帰分析の基礎1：単回帰分析の考え方
7 回帰分析の基礎2：重回帰分析の考え方とその算出手続き。
8 回帰分析の基礎3：重回帰分析を用いた研究事例についての検討。
9 回帰分析の応用：重回帰分析による調査データの分析。
10 変数を分類する1：因子分析の考え方。
11 変数を分類する2：主成分分析の考え方。
12 変数を分類する3：クラスター分析の考え方。
13 変数を分類する4：因子分析を用いた研究事例についての検討。
14 分析手法の復習・報告書を書く練習。
15 まとめ：多変量解析の理解の確認。

履修上の留意点 社会調査士資格のE科目に該当する。出席重視。
成績評価の方法 平常点、レポート
教科書／テキスト 使用しない（適宜プリントを配布する）
参考書 適宜、指示する

履修コード	065001 065002
科目名	社会保障論
担当者名	長尾 譲治

講義の到達目標(ねらい) 本科目は、社会福祉士指定科目の1つであり、ソーシャルワーカーを目指す皆さんにとって必要で十分な社会保障制度に関する実践的知識を習得すること、及びソーシャルワークの現場においてその知識を生かす応用能力を身につけることを第一の目的としている。

社会保障制度は、一見すると複雑・多岐にわたっており、わかりづらいつと感じる学生が多いのも事実である。しかし、社会保障は人間の基本的なニーズに対応したものであって、原理・原則は単純明快である。社会保障論の学習にあたっては、まずその原理・原則を理解した上で、制度上の例外を身につける方法が有効である。

講義では、マンガやドラマに出てくるおなじみの登場人物とその生活場面などの身近な実例に当てはめ、そこから出てくる社会保障制度を解説するなど、具体例を通じて実践的な社会保障の知識を身につけていく。また、社会保障の各制度の現状はどうなっているのか、これからどうしていきべきなのかについて、国民の福祉の維持・推進の役割を担う福祉専門職の立場から、考察していきたい。

講義の内容／授業スケジュール

(1) 社会保障とは(社会保障の必要性、日本の社会保障制度の体系など) (1回目)

(2) 各制度の詳細な解説

①医療保険制度(2~5回目) ②年金保険制度(6~11回目) ③労働保険制度(雇用保険、労災保険)(12~16回目) ④介護保険制度(17~20回目) ⑤民間の保険(生命保険、損害保険、その他の保険)(21回目)

(3) こんなときどうする? -私たちのライフサイクルと社会保障-

①就職したら(22回目) ②妊娠・出産・育児とその支援(23~24回目) ③病気や障害状態になったら(25~26回目) ④寝たきりや認知症になったら(27回目) ⑤ターミナル・ケアを受けるには(28回目)

(4) 各国の社会保障制度(29回目)

(5) 社会保障制度の現状と課題(30回目)

成績評価の方法 学年末試験の成績に、出席状況等を加味して評価する。

教科書／テキスト 特に指定しないが、必要に応じて参考書等を紹介する(授業は毎回の詳説プリントを通じて行う)。

参考書 週刊社会保障編集部編『社会保障便利事典』(法研)
その他、随時紹介する。

履修コード	075001 075002 075003
科目名	宗教学人類学
担当者名	佐藤 憲昭

講義の到達目標(ねらい) 宗教学人類学は、文化人類学の視点と方法から諸民族の宗教文化について比較研究をする学問である。そして、その営為を通して「人間とは何か」という問題に答えようとするものである。本年度は、人類に根源的・普遍的な文化のひとつに数えられている憑霊(ひょうれい)文化を取り上げる。

日常語で「私はツイテル」という場合のツキとは、神霊・精霊が憑いていることを本来は意味しているが、日常の会話ではツキの正体を不問にしている。神霊・精霊が憑いている現象は憑霊現象と呼ばれるが、その内容はすこぶる多岐にわたっている。本講では宗教学人類学の考え方を学習した後に、日本を含むアジアの諸地域で生起している憑霊文化を取り上げ、社会組織との関係を含むさまざまな角度から考察する。そして、憑霊文化を通して人間理解の可能性を探ってみたい。

講義の内容／授業スケジュール

次のテーマのもとに具体的に考察する。

第1~2回 宗教学人類学の学問的特徴、第3~4回 憑きもの研究と憑霊研究、第5~7回 憑霊研究とシャーマニズム研究、第8~10回 憑霊文化と脱魂文化、第11~13回 人間の憑霊と事物の憑霊、第14~16回 憑霊の連鎖現象、第17~21回 憑霊と民俗宗教・民俗仏教、第22~26回 憑霊型シャーマニズム、第27~29回 憑霊現象と社会組織、第30回 憑霊文化から見た人間理解の可能性。

履修上の留意点 出席をとるので、欠席をする場合、または欠席をした場合には、欠席届(形式は任意)を提出することが望ましい。

成績評価の方法 学年末のリポート(2400字~2800字)で評価する。合格の基準は、1. 講義内容を踏まえていること、2. 参考文献を読みこなしていること、3. みずからの言葉で論じていること、の三点にある。なお、追試験は実施する。

教科書／テキスト 使用しない。

参考書 授業中に適宜紹介する。

履修コード	058641
科目名	宗教文化論A
担当者名	芳賀 学

講義の到達目標(ねらい) この講義では宗教という人間社会にかなり普遍的な現象を取り上げ、それが、個人の精神的な支えとなり、社会の安定(および変化)に大きな役割を果たすことを社会的に概説する。具体的には、まず、セルフ・アンデンティティの維持(または変更)とのかかわりで宗教を捉える視点を提示し、その上で、日本社会の近代化プロセスを事例として、ライフスタイルや人びとの意識の変化と新宗教の拡大との関係を分析することによって、社会と宗教との密接な結びつきを明らかにする。このことを通じて、受講学生個々の「宗教を理解する力」の養成と向上を目指す。

講義の内容／授業スケジュール

(1) イントロダクション(2~5) アイデンティティとその揺らぎ、認知的不協和の理論と不幸の神義論、アイデンティティの社会性、アイデンティティと宗教(6~10) 新宗教とは何か: 教団ライフサイクル説、思想、組織、信者、活動(11~15) 新宗教と近代化: 幕末維新期、代表的教団としての天理教、明治末から昭和初期、敗戦直後の状況、高度経済成長期、近代化の気密室としての新宗教

履修上の留意点 結論を急がない粘り強い思考と、物事の良い面と悪い面を同時に視野に収める複眼的視角を取るよう努めてください。

成績評価の方法 学期末試験と授業期間内に提出をを求めるミニレポートとの総合評定で行います。

教科書／テキスト 使用しません。

参考書

- ・井上順孝『新宗教の解説』筑摩書房、1,155円、ISBN: 9784480082732
- ・井上順孝ほか編『新宗教事典』弘文堂、25,200円、ISBN: 9784335160189

履修コード	058651
科目名	宗教文化論B
担当者名	芳賀 学

講義の到達目標(ねらい) この講義においては、宗教という社会現象を取り上げ、それが現代の日本社会においてどのような変化・展開を遂げているかを社会学的な観点から概説する。具体的には、1980年代以降の日本社会に時間空間を限定して、伝統宗教と新宗教をめぐる状況の変化(カルト問題を含む)と、宗教を名乗らない広範な精神文化(=グレーゾーン)の拡大、という両面の現象群を取り上げ、それらが私たちのライフスタイルや価値意識と密接に連動して存在することを明らかにする。このことを通じて、受講学生個々の「現代社会と宗教とのかかわりを読み解く力」の養成と向上を目指す。

講義の内容／授業スケジュール (1) イントロダクション (2) 教団勢力の退潮とグレーゾーンの拡大 (3~4) 1980年代以降の新宗教: 「親密さ」と自己表出の欲求、3タイプの対応戦略 (5~11) グレーゾーンの諸現象: 自己啓発セミナー、背景としての消費社会、セルフ・ヘルプ・グループ、ネットワーク・ビジネス、エステ・サロン、占い、ヒーリング (12~13) オウム真理教とカルト問題: オウム真理教事件の概略、マインドコントロール説再考 (14~15) 現代日本人のライフスタイル: その変化と特徴、パラドクスとその対応

履修上の留意点 結論を急がない粘り強い思考と、物事の良い面と悪い面を同時に視覚に収める複眼的視角を取るよう努めてください。

成績評価の方法 学期末試験と授業期間内に提出を求める課題との総合評定で行います。

教科書／テキスト 使用しません。

参考書 ・井上順孝『新宗教の解説』筑摩書房、1,155円、ISBN: 9784480082732
・伊藤雅之・榎尾直樹・弓山達也編『スピリチュアリティの社会学』世界思想社、1,995円、ISBN: 9784790710936

履修コード	057801
科目名	情報処理実習
担当者名	軽部 幸浩

講義の到達目標(ねらい) 現代社会においてコンピュータは必須の情報処理装置である。とりわけ、大学生にとってのコンピュータは、知的作業をおこなう上で最低限習得しなければならないツールである。すでに高校時代にコンピュータを利用した授業を経験したものも多いと思うが、本講義では大学で必要とされる知的生産を支援するためのコンピュータ利用法を徹底的に習得する。大学に入ってからコンピュータをはじめ本格的に利用する学生もまだいると思われるので、コンピュータについてまったくの初心者も独力でコンピュータを活用して社会学のレポート等を作成することができる能力を培う。また、自分の得た結果や事実、考えを表現するための方法を習得する。なお、パーソナルコンピュータを個人で所有することで理解の程度が飛躍的に向上するであろう。余裕があれば購入することを薦める。

講義の内容／授業スケジュール 授業はすべて実習形式でおこなう。1つのテーマに数時間を当て、毎回授業内でおこなう課題と授業外でおこなう簡単な課題の提出を求める。具体的な内容は次のとおりである。

- 【前期】
- [1] 情報処理の基礎
 - [2] Internet利用の実際と注意(マナーやモラルについて)
 - [3] 電子的コミュニケーション(電子メールの利用法)
 - [4] タッチタイピングの完全習得(タイピングソフトを利用)
 - [5] 情報の検索(WWWの利用法)
 - [6~12] 大学生として必要なドキュメント処理能力の習得(MS-Word)
 - [13~15] プレゼンテーションの実際(プレゼンテーションの基礎技術)
- 【後期】
- [1~11] スプレッドシートの習得(MS-Excelによる集計、グラフ、データベース)
 - [12~15] 統計パッケージの習得([SPSS]{PASW Statistics, <http://www.spss.co.jp/>})

履修上の留意点 原則的に遅刻、欠席は認めない。欠席を年間授業回数1/3以上おこなった時点で、期末試験の受験資格を失う。また、遅刻は2回で欠席1回とする。授業内容の性格上、授業時間内だけでは絶対的に実習時間が不足する。学校行事等との衝突がなくても年間約20数回程度の授業しかおこなうことができない。そのため、本格的にコンピュータを応用するためには絶対的に実習時間が不足する。したがって週あたり2~3回(1回平均約2時間程度)の実習が必要となる(昨年度授業アンケートの結果では、週平均約2時間程度の実習をおこなっていたようである)。

成績評価の方法 出席および課題の提出を前提とし、前期・後期末におこなう筆記試験と併せて総合的に評価する。経験則から連続2回欠席すると授業の進度についていけなくなる。なお、遅刻は認めない。出席確認後の入室は認めるが、出席とはならないので注意する。連続3回以上欠席したものは、その時点で期末試験の受験資格はない。なお、この科目は1年次必修科目であるため単位の認定を受けられない者は、翌年度の履修となるが、機器の関係で実習装置を与えられない可能性がある。したがって1年次に履修を完了することを希望する。

教科書／テキスト 授業中に適宜紹介する。教材は、授業の中で全て配布する。配布された資料は、授業に際して常に持参してこること。

参考書 授業中に最新のものを指示する。

その他 年間20数回程度の講義時間しかないため絶対的な時間が不足する。従って、週あたり2回から3回(1回2時間程度)の自習が必要となり、それに対応する課題が出される。自習には、4号館にある総合情報センタ1Fの自習室を利用する。独自に購入するのであれば、MS-Windows対応のパソコンでMS-WindowsとMS-Officeが導入されているものを購入するとよい。詳細については開講時に解説する。
【授業Web】{<http://www.int2.komazawa-u.ac.jp/~karube/jugyo/>, <http://www.int2.komazawa-u.ac.jp/~karube/jugyo/>}
【e-Learning】{<https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/>, <https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/>}

履修コード	057901
科目名	情報処理実習
担当者名	軽部 幸浩

講義の到達目標(ねらい) 現代社会においてコンピュータは必須の情報処理装置である。とりわけ、大学生にとってのコンピュータは、知的作業をおこなう上で最低限習得しなければならないツールである。すでに高校時代にコンピュータを利用した授業を経験したものも多いと思うが、本講義では大学で必要とされる知的生産を支援するためのコンピュータ利用法を徹底的に習得する。大学に入ってからコンピュータをはじめ本格的に利用する学生もまだいると思われるので、コンピュータについてまったくの初心者が独力でコンピュータを活用して社会学のレポート等を作成することができる能力を培う。また、自分の得た結果や事実、考えを表現するための方法を習得する。なお、パーソナルコンピュータを個人で所有することで理解の程度が飛躍的に向上するであろう。余裕があれば購入することを薦め

講義の内容／授業スケジュール 授業はすべて実習形式でおこなう。1つのテーマに数時間を当て、毎回授業内でおこなう課題と授業外でおこなう簡単な課題の提出を求める。具体的な内容は次のとおりである。

【前期】

- [1] 情報処理の基礎
- [2] Internet利用の実際と注意（マナーやモラルについて）
- [3] 電子的コミュニケーション（電子メールの利用法）
- [4] タッチタイピングの完全習得（タイピングソフトを利用）
- [5] 情報の検索（WWWの利用法）
- [6～12] 大学生として必要なドキュメント処理能力の習得（MS-Word）
- [13～15] プレゼンテーションの実際（プレゼンテーションの基礎技術）

【後期】

- [1～11] スプレッドシートの習得（MS-Excelによる集計、グラフ、データベース）
- [12～15] 統計パッケージの習得（[SPSS] [PASW Statistics, <http://www.spss.co.jp/>]

履修上の留意点 原則的に遅刻、欠席は認めない。欠席を年間授業回数の1/3以上おこなった時点で、期末試験の受験資格を失う。また、遅刻は2回で欠席1回とする。授業内容の性格上、授業時間内だけでは絶対的に実習時間が不足する。学校行事等との衝突がなくても年間約20数回程度の授業しかおこなうことができない。そのため、本格的にコンピュータを応用するためには絶対的に実習時間が不足する。したがって週あたり2～3回（1回平均約2時間程度）の実習が必要となる（昨年度授業アンケートの結果では、週平均約2時間程度の実習をおこなっていたようである）。

成績評価の方法 出席および課題の提出を前提とし、前期・後期末におこなう筆記試験と併せて総合的に評価する。経験則から連続2回欠席すると授業の進度についていけなくなる。なお、遅刻は認めない。出席確認後の入室は認めるが、出席とはならないので注意する。連続3回以上欠席したものは、その時点で期末試験の受験資格はない。なお、この科目は1年次必修科目であるため単位の認定を受けられない者は、翌年度の履修となるが、機器の関係で実習装置を与えられない可能性がある。したがって1年次に履修を完了することを希望する。

教科書／テキスト 授業中に適宜紹介する。教材は、授業の中で全て配布する。配布された資料は、授業に際して常に持参してくること。

参考書 授業中に最新のことを指示する。

その他 年間20数回程度の講義時間しかないため絶対的な時間が不足する。従って、週あたり2回から3回（1回2時間程度）の自習が必要となり、それに対応する課題が出される。自習には、4号館にある総合情報センタ1Fの自習室を利用する。独自に購入するのであれば、MS-Windows対応のパソコンでMS-WindowsとMS-Officeが導入されているものを購入するとよい。詳細については開講時に解説する。

【授業Web】 {<http://www.int2.int.komazawa-u.ac.jp/~karube/jugyo/>, <http://www.int2.int.komazawa-u.ac.jp/~karube/jugyo/>}

【e-Learning】 {<https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/>, <https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/>}

履修コード	058001
科目名	情報処理実習
担当者名	軽部 幸浩

講義の到達目標(ねらい) 現代社会においてコンピュータは必須の情報処理装置である。とりわけ、大学生にとってのコンピュータは、知的作業をおこなう上で最低限習得しなければならないツールである。すでに高校時代にコンピュータを利用した授業を経験したものも多いと思うが、本講義では大学で必要とされる知的生産を支援するためのコンピュータ利用法を徹底的に習得する。大学に入ってからコンピュータをはじめ本格的に利用する学生もまだいると思われるので、コンピュータについてまったくの初心者が独力でコンピュータを活用して社会学のレポート等を作成することができる能力を培う。また、自分の得た結果や事実、考えを表現するための方法を習得する。なお、パーソナルコンピュータを個人で所有することで理解の程度が飛躍的に向上するであろう。余裕があれば購入することを薦め

講義の内容／授業スケジュール 授業はすべて実習形式でおこなう。1つのテーマに数時間を当て、毎回授業内でおこなう課題と授業外でおこなう簡単な課題の提出を求める。具体的な内容は次のとおりである。
【前期】
 [1] 情報処理の基礎
 [2] Internet利用の実際と注意（マナーやモラルについて）
 [3] 電子的コミュニケーション（電子メールの利用法）
 [4] タッチタイピングの完全習得（タイピングソフトを利用）
 [5] 情報の検索（WWWの利用法）
 [6～12] 大学生として必要なドキュメント処理能力の習得（MS-Word）
 [13～15] プレゼンテーションの実際（プレゼンテーションの基礎技術）
【後期】
 [1～11] スプレッドシートの習得（MS-Excelによる集計、グラフ、データベース）
 [12～15] 統計パッケージの習得（[SPSS] [PASW Statistics, <http://www.spss.co.jp/>]

履修上の留意点 原則的に遅刻、欠席は認めない。欠席を年間授業回数の1/3以上おこなった時点で、期末試験の受験資格を失う。また、遅刻は2回で欠席1回とする。授業内容の性格上、授業時間内だけでは絶対的に実習時間が不足する。学校行事等との衝突がなくても年間約20数回程度の授業しかおこなうことができない。そのため、本格的にコンピュータを応用するためには絶対的に実習時間が不足する。したがって週あたり2～3回（1回平均約2時間程度）の実習が必要となる（昨年度授業アンケートの結果では、週平均約2時間程度の実習をおこなっていたようである）。

成績評価の方法 出席および課題の提出を前提とし、前期・後期末におこなう筆記試験と併せて総合的に評価する。経験則から連続2回欠席すると授業の進度についていけなくなる。なお、遅刻は認めない。出席確認後の入室は認めるが、出席とはならないので注意する。連続3回以上欠席したものは、その時点で期末試験の受験資格はない。なお、この科目は1年次必修科目であるため単位の認定を受けられない者は、翌年度の履修となるが、機器の関係で実習装置を与えられない可能性がある。したがって1年次に履修を完了することを希望する。

教科書／テキスト 授業中に適宜紹介する。教材は、授業の中で全て配布する。配布された資料は、授業に際して常に持参してくること。

参考書 授業中に最新のことを指示する。

その他 年間20数回程度の講義時間しかないため絶対的な時間が不足する。従って、週あたり2回から3回（1回2時間程度）の自習が必要となり、それに対応する課題が出される。自習には、4号館にある総合情報センタ1Fの自習室を利用する。独自に購入するのであれば、MS-Windows対応のパソコンでMS-WindowsとMS-Officeが導入されているものを購入するとよい。詳細については開講時に解説する。
【授業Web】 {<http://www.int2.int.komazawa-u.ac.jp/~karube/jugyo/>, <http://www.int2.int.komazawa-u.ac.jp/~karube/jugyo/>}
【e-Learning】 {<https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/>, <https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/>}

履修コード	058611
科目名	政治社会学
担当者名	岩瀬 庸理

講義の到達目標(ねらい) 政治社会学の基礎的概念と理論の習得を目標とします。テーマは現代日本の政治参加の特徴を比較社会的に論じることです。社会学の理論と方法を用いて「市民社会」と「政治社会」との相互関係を理解し、説明する能力を獲得します。現代日本の政治社会の特徴を比較社会的に明らかにします。具体的な社会問題を取り上げながら、社会学的説明力の有効性を学び、また、参加行動の理解を深めます。

講義の内容／授業スケジュール
 第1回 政治社会学の対象と方法
 第2回 社会参加と政治参加
 第3回 日本人の政治参加
 第4回 子どもと政治
 第5回 子どもの政治的社会化
 第6回 成人の政治的社会化
 第7回 地位政治と階級政治
 第8回 日本人の投票行動
 第9回 支持政党なしの社会的機能
 第10回 中流社会と格差社会
 第11回 支配階級とパワーリート
 第12回 パワーエリートと大衆
 第13回 権力構造の多元化
 第14回 文化とナショナリズム
 第15回 ナショナリズムと愛国心

準備学習 わからない用語などは社会学事典・辞典で調べておきます。また必要に応じてリーディング・アサインメントを課します。

履修上の留意点 きちんとノートをとるように心がけてください。また、配布する資料は保存しておいてください。

成績評価の方法 学期末試験と授業内に提出を求める課題を中心に評価します（70%）。出席状況も評価します（30%）。必要に応じてリアクションペーパーを使います。

教科書／テキスト 特定の教科書は使用しません。

参考書 S. M. リブセット『政治のなかの人間』（創元新社）
 講読文献は教室で適宜指示します。

履修コード	065901 065902
科目名	地域福祉論
担当者名	川上 富雄

講義の到達目標(ねらい) 本講義では、今日的な福祉理念の理解、およびそれを具現化した制度・事業・実践等に関する知識の獲得をはかり、地域福祉時代のソーシャルワーカーに求められるセンスの涵養をねらいとする。具体的な講義の柱は以下の通り。

- (1) 今日的な福祉理念と地域福祉の考え方に関する理解を深める。
- (2) 様々な地域福祉活動およびその推進方法に関する理解を深める
- (3) 地域自立生活を支える様々な制度に関する理解を深める。
- (4) 地域福祉を推進する様々な機関・施設・団体に関する理解を深める。

なお、講義は高度かつ実践的内容になるので、テキスト等の事前通読を必須とする。各自充分な予習をして講義に臨んでほしい。併せて、本科目は社会福祉士国家試験指定科目ということもあり、試験内容も考慮した水準の講義を行う。

**講義の内容／
授業スケジュール**

1. 地域福祉と生活問題～福祉制度と地域自立生活の狭間～
2. 今日の福祉理念と地域福祉の概念
3. 地域福祉の歴史
4. 地域社会の変容とコミュニティ／コミュニティ政策①
5. 地域社会の変容とコミュニティ／コミュニティ政策②
6. 社会福祉における住民・利用者参加の意義と課題
7. 住民・利用者参加活動の形態と組織①～コミュニティ型
8. 住民・利用者参加活動の形態と組織②～アソシエーション型
9. 住民・利用者参加活動の形態と組織③～コミュニティビジネス／社会的企業
10. NPO・ボランティア活動とその支援（ボランティアセンターの役割）
11. 社会福祉協議会の歴史・使命・活動・経営①
12. 社会福祉協議会の歴史・使命・活動・経営②
13. 社会福祉協議会の実践～地域を基盤としたソーシャルワーク①
14. 社会福祉協議会の実践～地域を基盤としたソーシャルワーク②
15. 在宅福祉サービスの歴史と現状および地域包括支援センターの誕生
16. 福祉情報化と福祉教育の推進
17. 地域福祉推進における国・地方自治体の役割・関係
18. 地域自立生活を支える仕組みⅠ～成年後見制度①
19. 地域自立生活を支える仕組みⅠ～成年後見制度②
20. 地域自立生活を支える仕組みⅡ～日常生活自立支援事業①
21. 地域自立生活を支える仕組みⅡ～日常生活自立支援事業②
22. 苦情解決システムと第三者評価事業
23. 福祉計画の系譜と地域福祉計画・地域福祉活動計画
24. 民生委員制度と民生委員活動①
25. 民生委員制度と民生委員活動②
26. 地域福祉における社会福祉施設の役割（施設の社会化）
27. 地域福祉を支える財源～公費・財団・共同募金
28. 利用者主体・地域自立生活を支える供給システムのあり方（トータルケアシステム）
29. 地域福祉と生活問題～福祉制度と地域自立生活の狭間～再考
30. まとめ

準備学習

テキストおよび参考図書の通読

履修上の留意点

地域福祉論は、他の分野論・各論系科目の横断科目的な性格が強い。児童・障害・高齢者・社会保険・生活保護分野等の制度や対象者像、利用の仕組み、施設やサービス等についての知識を前提として講義を進めるので、少なくとも2年次以降の履修が望ましい（できれば3年次履修を勧める）。他学部・他学科生で履修する学生は、『国民の福祉の動向』（厚生統計協会）や『厚生白書』などを熟読し、今日の社会問題や社会保障の枠組みに関する一定の理解を持って臨むこと。

成績評価の方法

前・後期末試験の成績に、研究発表・課題・レポート等を加味して判定する。講義への出席は期末試験受験の要件とするが、試験による知識・技術獲得など実質的な側面を強く評価する。期末試験の評価が成績評価の過半を占める。

教科書／テキスト

- 社会福祉士養成講座編集委員会編『〔改訂〕新・社会福祉士養成講座⑨地域福祉の理論と方法』中央法規出版 2010
- 山本主税・川上富雄『地域福祉新時代の社会福祉協議会』中央法規出版 2003

参考書

- 岡村重夫『地域福祉論』光生館 1974／復刻版2009
- 日本社会福祉士会編『新・社会福祉援助の共通基盤(下)』中央法規出版 2009
- 井岡勉監修／牧里・山本編『住民主体の地域福祉論』法律文化社 2008
- 大橋謙策・原田正樹編『地域福祉計画と地域福祉実践』万葉舎 2000
- 小林雅彦編『社会福祉の新潮流⑤地域福祉論』学文社 2010
- その他、講義中に紹介する。

その他

基本的には講義形式で行うが、一部、グループ研究発表などを盛り込む。

履修コード	058101
科目名	調査統計基礎演習
担当者名	二方 龍紀

講義の到達目標(ねらい) 本授業の目的は統計学の基礎知識を身につけ、社会調査で得たデータの分析を実際に行えるようにすることである。講義および統計パッケージSPSSを用いた演習方式により授業を進める。前期は、記述統計データやグラフの読み方およびそれらの計算方法、2変数間の関連についての測度などを中心に、社会調査の結果を読んで理解するために必要な統計学の基礎を学ぶ。後期は、確率論の基礎と仮説検定・推定の理論とその応用、相関係数、回帰分析などを学び、標本調査のデータ分析を行うための統計学的知識を修得する。

講義の内容／ 授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会調査と統計：統計学とは何か 2 度数分布と統計図表1：離散測度の度数分布と図表の読み方・作り方 3 度数分布と統計図表2：連続測度の度数分布と図表の読み方・作り方 4 標本分布の特性値1：平均値、中央値、最頻値 5 標本分布の特性値2：分散と標準偏差 6 統計図表と標本分布の特性値の演習 7 正規分布と相対的位置の測度1：正規分布、標準正規分布、正規分布表 8 正規分布と相対的位置の測度2：Z得点、変動係数 9 クロス集計：2重クロス集計 10 クロス集計：確率と帰無仮説 11 カイ二乗検定 12 因果関係と相関関係の区別、擬似相関について 13 相関係数1 14 相関係数2 15 前期まとめ 16 確率論の基礎 17 母集団と標本：抽出法の理論 18 母数の推定と中心極限定理 19 標本から母集団を推定する1：母平均の推定 20 標本から母集団を推定する2：母比率の推定 21 標本から母集団を推定する3：母標準偏差の推定 22 仮説の検定：仮説とは、2種類の過誤、検定の発想 23 仮説検定1：母平均・母比率の差の検定 24 仮説検定2：母分散に関する検定、独立性の検定 25 相関分析1：分析の概要 26 相関分析2：相関係数と検定 27 回帰分析1：分析と回帰係数の読み方 28 回帰分析2：検定 29 回帰分析3：その他の回帰分析 30 まとめ
----------------------------	---

履修上の留意点 実習・講義

成績評価の方法 筆記試験と平常点

教科書／テキスト 鳥居泰彦『はじめての統計学』日本経済新聞社、2,345円、978-4-532-13074-9。

参考書 授業内で適宜指示する。

履修コード	058021
科目名	統計学基礎演習 A
担当者名	池田 心豪

講義の到達目標(ねらい) 社会調査によって得たデータの分析法として統計学を学ぶ。社会統計学の基礎的な知識の習得と、統計を正しく用いる方法、統計データの読み方などを中心に、講義と演習形式で授業を行う。具体的には、記述統計データの読み方や計算方法、グラフの読み方、2変数間の関連についての測度などを中心に、統計の基礎を学ぶ。

講義の内容／ 授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 第1回 社会調査と統計：統計学とは何か、変数の種類 第2回 度数分布と統計図表1：離散測度の度数分布と図示法 第3回 度数分布と統計図表2：連続測度の度数分布と図示法 第4回 中心傾向の測度：代表値（平均値、中央値、最頻値とその比較） 第5回 得点の散布度1：探索的データ解析と散布度、四分位数、箱ヒゲ図など 第6回 得点の散布度2：分散と標準偏差 第7回 代表値、散布度の演習、統計資料の整理 第8回 正規分布と相対的位置の測度1：正規分布、標準正規分布、正規分布表 第9回 正規分布と相対的位置の測度2：Z得点、変動係数 第10回 クロス集計：2重クロス集計 第11回 クロス集計：確率と帰無仮説 第12回 カイ二乗検定 第13回 因果関係と相関関係の区別、擬似相関について 第14回 相関係数1 第15回 相関係数2
----------------------------	---

成績評価の方法 出席・レポート・試験

教科書／テキスト 鳥居泰彦著『はじめての統計学』（日本経済新聞社）

履修コード	058011
科目名	統計学基礎演習 A
担当者名	香川 めい

講義の到達目標(ねらい) 社会調査によって得たデータの分析法の基礎——社会統計学の基礎的な知識、データの読み方——を修得する。その上で、実際にデータを分析し、実例を扱いながら、分析結果の統計的意味と社会学的含意を理解できるようにすることを旨とする。

講義の内容／授業スケジュール 1. イントロダクション：社会調査と統計、2. データを記述する (1) 度数分布表①、3. データを記述する (2) 度数分布表②、4. データを記述する (3) グラフの作成、5. 分布を記述する (1) 中心傾向の特性値、6. 分布を記述する (2) 散らばりの特性値、7. 分布を記述する (3) 分布の形状と特性値の関係、8. 正規分布と相対的位置の測定、9. 2つの変数の関連を探る (1) 相関と因果、10. 2つの変数の関連を探る (2) クロス集計表の読み方、11. 2つの変数の関連を探る (3) クロス表の関連の強さを測る指標、12. 2つの変数の関連を探る (4) χ^2 乗検定、13. 変数の関連の背後を探る—三重クロス表入門—、14. 量的変数の関連を考える、15. まとめ

準備学習 数式を用いた説明を行うことがあるので、和の記号 Σ にあまりなじみのない学生は、高校までの教科書や参考書を復習するなど、和の記号 Σ について理解しておくことが望ましい。また比率やパーセントについて理解していることが前提となるため、この点についても復習しておくこと。

履修上の留意点 遅刻や提出期限に遅れて課題を提出した場合は、減点の対象とします。

成績評価の方法 学期末試験(またはレポート) (60%)、出席回数 (15%)、演習課題の提出 (25%) を基本に評価します。

教科書／テキスト 鳥居泰彦、『はじめての統計学』、日本経済新聞社、1994年

参考書 ボーンシュテッド&ノーキ、『社会統計学』、ハーベスト社、1990年
岩井紀子・保田時男、『調査データ分析の基礎』、有斐閣、2007年

その他 社会調査士資格認定のC科目に該当する。
講義と演習とを並行して授業を進めていく。

履修コード	058031
科目名	統計学基礎演習 A
担当者名	二方 龍紀

講義の到達目標(ねらい) 本授業の目的は統計学の基礎知識を身につけ、社会調査で得たデータの分析を実際に行えるようにすることである。講義および統計パッケージSPSSを用いた演習方式により授業を進める。記述統計データやグラフの読み方およびそれらの計算方法、2変数間の関連についての測定などを中心に、社会調査の結果を読んで理解するために必要な統計学の基礎を学ぶ。

講義の内容／授業スケジュール 1 社会調査と統計：統計学とは何か
2 度数分布と統計図表1：離散測度の度数分布と図表の読み方・作り方
3 度数分布と統計図表2：連続測度の度数分布と図表の読み方・作り方
4 標本分布の特性値1：平均値、中央値、最頻値
5 標本分布の特性値2：分散と標準偏差
6 統計図表と標本分布の特性値の演習
7 正規分布と相対的位置の測定1：正規分布、標準正規分布、正規分布表
8 正規分布と相対的位置の測定2：Z得点、変動係数
9 クロス集計：2重クロス集計
10 クロス集計：確率と帰無仮説
11 カイ二乗検定
12 因果関係と相関関係の区別、擬似相関について
13 相関係数1
14 相関係数2
15 まとめ

履修上の留意点 実習・講義

成績評価の方法 筆記試験と平常点

教科書／テキスト 鳥居泰彦『はじめての統計学』日本経済新聞社、2,345円、978-4-532-13074-9。

参考書 授業内で適宜指示する。

履修コード	058121
科目名	統計学基礎演習 B
担当者名	池田 心豪

講義の到達目標(ねらい) 社会調査によって得たデータの分析法として統計学を学ぶ。社会統計学の基礎的な知識の習得と、統計を正しく用いる方法、統計データの読み方などを中心に、講義と演習形式で授業を行う。具体的には、確率論の基礎と仮説検定・推定の理論とその応用、多重クロス集計や相関係数、回帰分析などを学ぶ。

講義の内容／授業スケジュール 第1回 確率論の基礎
第2回 母集団と標本：抽出法の理論
第3回 確率分布と統計的仮説検定の考え方1：仮説検定の手順、推定とは
第4回 確率分布と統計的仮説検定の考え方2：正規分布、中心極限定理、標準誤差、有意確率など
第5回 確率分布と統計的仮説検定の考え方3：点推定と信頼区間
第6回 確率分布と統計的仮説検定の考え方4：仮説検定
第7回 平均の差の検定1：2つの平均の差の検定
第8回 平均の差の検定2：比率の差の検定
第9回 多重クロス集計とエラポレーション
第10回 帰属性相関係数
第11回 2つの連続変数間の関係：相関係数とその検定
第12回 単回帰分析1：線形回帰、決定係数と検定
第13回 単回帰分析2：非線形回帰
第14回 重回帰分析
第15回 まとめ

成績評価の方法 出席・レポート・試験

教科書／テキスト 鳥居泰彦著『はじめての統計学』（日本経済新聞社）

履修コード	058111
科目名	統計学基礎演習 B
担当者名	香川 めい

講義の到達目標(ねらい)	データ分析の基礎をふまえ、(1)推測統計の基本的な考え方を習得し、(2)研究課題を解決するための道具として統計的手法を使いこなせるようになることを目的とする。統計的データの集計・分析に必要な基礎的な統計知識、すなわち基本統計量、確率論の基礎、標本抽出の理論、検定・推定の基礎、多重クロス表に関するエラポレーション、相関係数、偏相関係数、重回帰分析などを扱う。
講義の内容／授業スケジュール	1.イントロダクション：社会調査から得られるデータ、2.確率論の基礎、3.母集団と標本、4.さまざまな確率分布、5.確率分布と仮説検定の考え方、6.点推定と区間推定、7.平均の差の検定と推定、8.比率の差の検定と推定、9.多重クロス集計とエラポレーション、10.連続変数の関連：相関係数、11.単回帰分析(1)、12.単回帰分析(2)、13.3つ以上の変数の関連、14.重回帰分析、15.まとめ
準備学習	平均、分散、標準偏差、共分散など社会統計の基礎的な知識は事前に修得していることを前提に授業を行うので、十分に復習しておくことが望ましい。
履修上の留意点	遅刻や提出期限に遅れて課題を提出した場合は、減点の対象とします。
成績評価の方法	学期末試験(またはレポート)(60%)、出席回数(15%)、演習課題の提出(25%)を基本に評価します。
教科書／テキスト	鳥居泰彦、『はじめての統計学』、日本経済新聞社、1994年
参考書	ボンシュテット&ノーキ、『社会統計学』、ハーベスト社、1990年 岩井紀子・保田時男、『調査データ分析の基礎』、有斐閣、2007年
その他	社会調査士資格認定のD科目に該当する。 講義と演習と並行して授業を進めていく。

履修コード	058131
科目名	統計学基礎演習 B
担当者名	二方 龍紀

講義の到達目標(ねらい)	本授業の目的は統計学の基礎知識を身につけ、社会調査で得たデータの分析を実際に行えるようにすることである。講義および統計パッケージSPSSを用いた演習方式により授業を進める。確率論の基礎と仮説検定・推定の理論とその応用、相関係数、回帰分析などを学び、標本調査のデータ分析を行うための統計学的知識を修得する。
講義の内容／授業スケジュール	1 確率論の基礎 2 母集団と標本：抽出法の理論 3 母数の推定と中心極限定理 4 標本から母集団を推定する1：母平均の推定 5 標本から母集団を推定する2：母比率の推定 6 標本から母集団を推定する3：母標準偏差の推定 7 仮説の検定：仮説とは、2種類の過誤、検定の発想 8 仮説検定1：母平均・母比率の差の検定 9 仮説検定2：母分散に関する検定、独立性の検定 10 相関分析1：分析の概要 11 相関分析2：相関係数と検定 12 回帰分析1：分析と回帰係数の読み方 13 回帰分析2：検定 14 回帰分析3：その他の回帰分析 15 まとめ
履修上の留意点	実習・講義
成績評価の方法	筆記試験と平常点
教科書／テキスト	鳥居泰彦『はじめての統計学』日本経済新聞社、2,345円、978-4-532-13074-9。
参考書	授業内で適宜指示する。

履修コード	058351
科目名	都市社会学 A
担当者名	牛島 千尋

講義の到達目標(ねらい)	本講義では、都市社会学の主要な理論を講述し、地域社会としての都市へアプローチするための基本的概念と分析方法について理解を深めていく。
講義の内容／授業スケジュール	講義内容の概略は以下の通りである。 第1回：オリエンテーション 第2回：都市と農村に関する研究、第3～4回：シカゴ学派の遺産と人間生態学、第5～6回：都市の拡大と空間構造、第7～8回：アーバンイズム論、第9～10回：前産業型都市と産業型都市、第11～12回：都市化とコミュニティの変容、第13～14回：都市問題と都市計画、第15回：試験
成績評価の方法	出席状況、小テスト、レポートによって評価します。
教科書／テキスト	高橋勇悦監修、菊池美代志・江上涉編『改訂版 21世紀の都市社会学』学文社、2008年。
参考書	その都度紹介します。
その他	ビデオやパワーポイントなどの電子教材を利用し、講義形式で行います。

履修コード	058711
科目名	犯罪と逸脱の社会学A
担当者名	作田 誠一郎

講義の到達目標(ねらい) 現代社会における犯罪と逸脱に対する基本的な研究方法について概観します。その後、具体的な犯罪と非行に関する諸理論を中心に紹介し、現代社会における犯罪や非行を理解するための社会的なアプローチを身につけることが本講義のねらいです。

講義の内容／授業スケジュール (1) 逸脱社会学とは何か (2~4) 逸脱現象の研究手法 (5~8) 犯罪・非行の逸脱理論Ⅰ(社会解体論、アノミー論等) (9~11) 犯罪・非行の逸脱理論Ⅱ(レイベリング理論、コントロール理論等) (12~14) 犯罪・非行の逸脱理論Ⅲ(抑止理論、割れ窓理論等) (15) まとめ

準備学習 今日の犯罪や非行に対する理解と関心を高めるために日ごろから新聞等に目を配り、問題意識をもつように心がけてください。また犯罪や非行に関する書籍(ルポルタージュや犯罪史など)に目を通しておくことは本講義を受講するための事前学習として有益です。

履修上の留意点 詳細は、初回の講義で説明します。

成績評価の方法 期末試験(5割)、講義内の課題提出・出席(5割)により評価します。詳細は初回の講義で説明します。

教科書／テキスト 適宜、授業中に資料を配布します。

参考書 下記のほか、講義の中で随時紹介します。
 デュルケム(宮島喬訳)『自殺論』(訳1985年刊、中央公論社、980円、ISBN:4122012562)
 小林寿一編『少年非行の行動科学——学際的アプローチと実践への応用』(2008年刊、北大路書房、2625円、ISBN:9784762826047)
 河合幹雄『日本の殺人』(2009年刊、筑摩書房、819円、ISBN:9784480064882)
 湯浅誠『反貧困——「すべり台社会」からの脱出』(2008年刊、岩波書店、777円、ISBN:9784004311249)
 阿部彩『子どもの貧困——日本の不公平を考える』(2008年刊、岩波書店、819円、ISBN:9784004311577)

その他 後期に開講される「犯罪と逸脱の社会学B」もあわせて履修することをおすすめします。

履修コード	058721
科目名	犯罪と逸脱の社会学B
担当者名	作田 誠一郎

講義の到達目標(ねらい) 逸脱に対する社会的アプローチから官庁統計やメディア報道について考えていきます。また、犯罪・非行に関わる法執行機関と刑事司法の動向について説明します。その後、日本の犯罪や非行の近代化について明治期以降の歴史的観点から概観します。
 後半では、犯罪・非行を中心とした社会問題について後期近代の特徴を踏まえながら論点をとりあげて検討を加えていきます。講義を通じて社会的な視点から逸脱に対する考察力を身につけ、高めることを目的とします。

講義の内容／授業スケジュール (1) 逸脱に対する社会的アプローチ (2) 官庁統計を読む (3・4) 犯罪報道の特徴と読み解き方 (5・6) 法執行機関と刑事司法のプロセス (7~9) 少年非行史 (10~14) 今日の逸脱研究(精神医療化、高齢者犯罪、性の逸脱、ホワイトカラー犯罪、学校社会の逸脱等) (15) まとめ

準備学習 今日の犯罪や非行に対する理解と関心を高めるために日ごろから新聞等に目を配り、問題意識をもつように心がけてください。また犯罪や非行に関する書籍(ルポルタージュや犯罪史など)に目を通しておくことは本講義を受講するための事前学習として有益です。

履修上の留意点 詳細は、初回の講義で説明します。

成績評価の方法 期末試験(5割)、講義内の課題提出・出席(5割)により評価します。詳細は初回の講義で説明します。

教科書／テキスト 適宜、授業のなかで資料を配布します。

参考書 下記のほか、講義の中で随時紹介します。
 河野義行ほか『報道は何を学んだのか——松本サリン事件以後のメディアと世論』(2004年刊、岩波書店、504円、ISBN:400093363)
 浜井浩一・芹沢一也『犯罪不安社会——誰もが「不審者」?』(2006年刊、光文社、777円、ISBN:4334033814)
 鮎川潤『新版 少年非行の社会学』(2002年刊、世界思想社、1995円、ISBN:4790709442)
 小林寿一編『少年非行の行動科学——学際的アプローチと実践への応用』(2008年刊、北大路書房、2625円、ISBN:9784762826047)
 日本犯罪学会編『犯罪からの社会復帰とソーシャル・インクルージョン』(2009年刊、現代人文社、2415円、ISBN:9784877984045)

その他 前期に開講される「犯罪と逸脱の社会学A」もあわせて履修することをおすすめします。

履修コード	058411
科目名	マス・コミュニケーション論A
担当者名	深澤 弘樹

講義の到達目標(ねらい) 現代を生きる私たちにとって、世の中の出来事を知る手段としてマス・メディアはなくてはならない存在となっている。一方、インターネットの発達により、マス・メディアを媒介とするマス・コミュニケーション活動は日々、変化している。こうした点を踏まえ、本講義では、マス・コミュニケーションの基本的概念や活字メディアから電子メディアに至る変容過程を概観するとともに、その機能について理解することを目的とする。さらには、マス・メディアによる社会的現実の構築作用やジャーナリズムの役割についての理解を深め、洪水のような情報のなかから有益なものを見極める力を養う。

講義の内容／授業スケジュール 第1回: ガイダンス、第2~3回: マス・コミュニケーションの基礎概念、第4~6回: マス・コミュニケーション発達史、第7~9回: マス・コミュニケーションの理論、第10回: 受け手の能動性、第11~12回: メディアによる社会的現実の構築、第13~14回: ジャーナリズムとは何か、第15回: まとめ

準備学習 日頃から新聞、テレビなどから発せられる情報を漠然と受け入れるのではなく、批判精神、問題意識を持って接した上で授業に臨んでほしい。

成績評価の方法 学期末試験(7割)に出席状況や小テストなどの平常点(3割)を加味して総合的に評価する。

教科書／テキスト 特に使用しない。毎回レジメを配布して授業を進める。

参考書 早川善治郎編著『新版 概説マス・コミュニケーション』学文社、3300円、ISBN978-4-7620-2055-1

上記以外の文献については、授業中に随時提示する。

履修コード	058421
科目名	マス・コミュニケーション論B
担当者名	深澤 弘樹

講義の到達目標(ねらい) 多メディア化によってマス・コミュニケーション活動が日々、変化するなか、既存のマス・メディアの現状と今後を展望するのが本講義である。マス・コミュニケーション論Aでは、マス・コミュニケーション活動の定義や歴史、人々への影響といった理論的な解説を中心としたが、本講義では、それを受けて、実際のメディア組織の成り立ちや日々の情報発信活動がいかなるものであるのかをより詳細に見ていく。産業、組織、制度としてのメディアの「今」を考えながら、インターネット社会における旧来のメディアのあり方や今後のコミュニケーション活動の未来を展望してみたい。また、メディアから発せられる情報を読み解くためのメディアリテラシーを身につけることも本講義の目的である。

講義の内容／授業スケジュール 第1回：ガイダンス、第2～3回：新聞の現状、第4～6回：放送の現状、第7回：出版の現状、第8回：広告の現状、第9～11回：インターネット時代のマス・メディア、第12回：コミュニケーション・メディアの発達、第13～14回：メディア・リテラシーを身につける、第15回：まとめ

準備学習 日頃から新聞、テレビなどから発せられる情報を漠然と受け入れるのではなく、批判精神、問題意識を持って接した上で授業に臨んでほしい。

履修上の留意点 マス・コミュニケーション論Aを履修していることが望ましい。

成績評価の方法 学期末試験（7割）に出席状況や小テストなどの平常点（3割）を加味して総合的に評価する。

教科書／テキスト 特に使用しない。

参考書 早川善治郎編著『新版 概説マス・コミュニケーション』学文社、3300円、ISBN978-4-7620-2055-1
藤竹暁編著『図説 日本のマスメディア[第二版]』日本放送出版協会、1120円、ISBN4-14-091039-9
上記以外の文献については、授業中にその都度提示する。

履修コード	058551
科目名	民法
担当者名	大宮 隆

講義の到達目標(ねらい) 民法は、我々の日常生活の基本法として、財産と家族に関する事項を規律する法律である。本講義は編別でいうと親族、相続が対象である。出生、婚姻、離婚、扶養、相続という家庭生活の中で人の一生に生起するほとんどの事柄に係わる身近な法律である。家庭裁判所調査官補試験などをを目指す人に受講を勧めます。

講義の内容／授業スケジュール 親族—①婚姻、離婚
②親子
③親権、後見補佐補助
④扶養
相続—①遺言
②法定相続
③遺留分

準備学習 予習が必要である。

履修上の留意点 教科書、条文を読むこと。

成績評価の方法 出席状況と試験の成績を総合に評価を行う。

教科書／テキスト 『新民法概説（3）親族・相続』（有斐閣）1,800円
ISBN4-641-11265-7

参考書 適宜紹介する。

履修コード	065521 065522
科目名	老人福祉論
担当者名	東條 光雅

講義の到達目標(ねらい) 少子高齢化社会の進展に伴い後期老年期人口が増加し、要介護高齢者の急増、家族介護の深刻化、高齢者虐待の多発など、高齢者やその家族に関わる様々な社会的問題が発生し、医療・年金・介護などの社会保険制度のあり方が大きな政治課題となっている。本講義では、わが国における高齢化の現状と動向、高齢者や家族を取り巻く状況、これまでの高齢者対策や高齢者福祉制度の変遷、現行の高齢者保健福祉制度等について理解を深めてもらうとともに、今後の高齢者支援のあり方について論じてゆく。

講義の内容／授業スケジュール 第1回 高齢者の心理・精神的理解
第2回 高齢者の身体的理解
第3回 高齢者の社会的理解
第4回 高齢化・高齢社会の定義とわが国における高齢化の現状
第5回 諸外国における高齢化の状況と少子高齢化の要因
第6回 高齢者を取り巻く諸問題
第7回 高齢者保健福祉の発展過程
第8回 高齢者保健福祉の現行法体系
第9回 老人福祉法
第10回 高齢者医療確保法
第11回 高齢者虐待防止法
第12回 高齢者を支援する組織と役割（1）
第13回 高齢者を支援する組織と役割（2）
第14回 高齢者を支援する組織と役割（3）
第15回 これからの高齢者支援

履修上の留意点 この授業は講義形式で進めてゆくが、適宜受講生に対して講義内容に関する質問をしたり、意見発表をしてもらう。近年、受講生の私語や居眠りが目立つので、授業態度に問題がある場合には退室してもらう。履修学生は、気を引き締めて授業に臨んでもらいたい。

成績評価の方法 原則的には、3分の2以上の出席があれば定期試験を受けることができ、定期試験の成績によって評価する。

教科書／テキスト 『高齢者に対する支援と介護保険制度』、新社会福祉士養成講座第13巻、中央法規出版、2009年3月出版予定

参考書 『社会福祉小六法』、『厚生労働白書』、『国民の福祉の動向』など

その他 講義はパワーポイントを使って行う

履修コード	098801
科目名	労働法
担当者名	藤本 茂

講義の到達目標(ねらい) 今日、雇用社会は、能力主義人事管理の導入に見られるように大きく変貌しています。労働法は、労働問題を平和的に解決する方法を検討する法領域です。この変動に無関係ではられません。労働者に降りかかるさまざまな事象は、最近雇用関係法領域において顕著です。たとえば、労働基準法改正(近くでは労働時間や年次有給休暇など)、男女雇用平等、労働契約法などです。本講義では雇用関係法領域を中心に、基礎的知識を身につけることを到達目標にしています。

講義の内容／授業スケジュール 下記事項について、基礎的知識を学びつつ、現代的課題に言及します。
 1 回目の授業のときにプリントを配布してガイダンスをします。
 以下に、年間スケジュールを掲げます。ただし、重要な裁判などホット・イシューが出されればそれを中心にしたテーマに急きょ変更することもあります。また、授業中の理解の様子から変わることもあります。また、調整の回も設けました。したがって、以下のスケジュールは目安です。
 第1回 ガイダンスー労働法分野と授業で扱う分野
 第2回 労働法の基礎的考え方
 第3回 日本型雇用システムの変化と労働法
 第4回 労働関係の主人公ー労働者、使用者、労働組合
 第5回 労働契約と労働契約法
 第6回 労働条件の最低基準の法定① 労働の自主性の確保
 第7回 労働条件の最低基準の法定② 最低基準の定立の意味
 第8回 調整
 第9回 雇用における平等① 労基法3条
 第10回 雇用における平等② 男女賃金差別の禁止
 第11回 雇用における平等③ 男女雇用機会均等法
 第12回 労働条件の集团的決定① 労働契約と就業規則
 第13回 労働条件の集团的決定② 就業規則の法的性質
 第14回 労働条件の集团的決定③ 就業規則による労働条件変更
 第15回 調整
 第16回 雇用の入口① 採用
 第17回 雇用の入口② 内定制度・試用制度
 第18回 人事異動 配転
 第19回 雇用の終了① 個別労働関係の終了
 第20回 雇用の終了② 法による解雇規制
 第21回 雇用の終了③ 解雇権濫用
 第22回 調整
 第23回 賃金・賞与・退職金① 賃金支払いの原則など
 第24回 賃金・賞与・退職金② 賞与・退職金
 第25回 労働時間① 労働時間に対する規制
 第26回 労働時間② 変形制度など
 第27回 労働時間③ 労働時間の例外
 第28回 年次有給休暇① 年休権の法的性質
 第29回 年次有給休暇② 時季指定・時季変更、計画年休
 第30回 調整

準備学習 テキストを読むこと(少なくとも該当単元のところは読んで授業に臨んでください)。新聞を読むことなどで。現代雇用問題に関する新書なども読んでください。

履修上の留意点 出席は義務。欠席はマイナス。私語はNo、携帯電話はOff、内職はNo。そして無断で席を立つこともNo。いわゆる授業のマナーは守ってください。配布プリントは取り上げる項目を列挙したレジюмеや資料です。教科書は予習や復習をする上で欠かせないアイテムでしょう。憲法、民法、社会保障法、社会政策は履修してほしい科目です。

成績評価の方法 成績は、学年末試験がメインで、受験しなければ評価が付きません。レポートや中間試験そして出欠も考慮して評価します。追試験は実施します。

教科書／テキスト 教科書は、学修する上での必要アイテムです。学修に臨む自己の熱意によって各自で決めてください。よくわからないという方には、金子征史・藤本茂・高野敏春・大場敏彦共著『基礎から学ぶ労働法 I [第2版]』(エイデル研究所 2010)を掲げます。もとより、これ以外でもかまいませんが、相談して下さい。

参考書 概説書・参考書をいくつか、第1回目の授業において紹介します。六法は最新のもの(法律改正や制定があるので特に注意)。そして、労基法施行規則の載っているものを用意してください。詳しくは、第1回授業で配布するプリントで。

その他 各々の事項について法的にはどのように考えていくのか、イメージを描きやすいように、裁判例など具体的な例を掲げながら授業を進めます。

履修コード	073701
科目名	老年心理学
担当者名	植田 恵

講義の到達目標(ねらい) 本講義では、生涯発達という観点を軸に、前半では、心身の加齢変化の特徴について学び、後半では、高齢者が直面する問題とそれに対する心理的援助・対応について学ぶ。特に、心理臨床の応用場面として、認知症や脳卒中の後遺症などによるコミュニケーション障害のある高齢者について、具体例を紹介しながら進める。

講義の内容／授業スケジュール

前期
 第1回-2回：少子高齢社会の到来と高齢者の現状
 第3回-4回：加齢と生涯発達
 第5回-6回：身体に加齢変化
 第7回-9回：感覚・知覚・認知機能の加齢変化
 第10回-11回：高齢者のアセスメント技法
 第12回-14回：パーソナリティと適応
 第15回：まとめ

後期
 第16回-17回：高齢者の暮らしと人間関係
 第18回-19回：老年期の精神病理（1）喪失体験、孤独、死
 第20回-21回：老年期の精神病理（2）自殺、うつ
 第22回-25回：老年期の精神病理（3）認知症
 第26回-27回：高齢者とのコミュニケーション
 第28回-29回：障害をもつ高齢者に対する心理的援助と対応
 第30回：まとめ

成績評価の方法 期末試験（後期末）および小レポート（2回）。成績の配分は、試験8：小レポート2とする。

教科書／テキスト 指定しない

参考書 講義の中で随時紹介する。